



Sun Fire™ X4170、X4270、および X4275 サーバー Windows オペレーティングシス テムインストールガイド

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 820-7810-10
2009 年 3 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright © 2009 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている製品に組み込まれた技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Java、Sun Studio、Sun Fire は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社またはその子会社の商標もしくは登録商標です。Sun のロゴおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

Intel は Intel Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Adobe のロゴマークは、Adobe Systems, Inc. の登録商標です。

OPENLOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

予備または交換用の CPU の使用は、米国の輸出法に従って輸出された製品に搭載されている CPU の修理または 1 対 1 での交換に制限されています。米国政府の許可なしに、製品のアップグレードに CPU を使用することは、厳重に禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。



Please
Recycle



Adobe PostScript

目次

はじめに vii

1. オペレーティングシステムのインストールの計画 1
 - サポート対象オペレーティングシステム 2
 - あらかじめインストールされている Solaris 10 イメージ 3
 - インストールの前提条件 3
 - インストール方法 5
 - コンソール出力 5
 - インストール起動メディア 7
 - インストール先 9
 - 新規インストールの BIOS 設定の確認 10
 - 作業を開始する前に 11
 - ▼ 新規インストールの BIOS 設定の表示または編集 11
2. Windows Server 2003 オペレーティングシステムのインストール 17
 - Windows Server 2003 をインストールする際の作業マップ 18
 - 起動時のデバイスドライバ 20
 - インストールに必要な大容量記憶装置ドライバの準備 20
 - デバイスドライバ用フロッピーディスクの作成 21
 - ▼ デバイスドライバのインストール用フロッピーディスクの作成 22

- デバイスドライバ用フロッピーイメージの準備 24
 - ▼ デバイスドライバのインストール用フロッピーイメージの準備 25
- ローカルまたはリモートのメディアを使用した Windows Server 2003 のインストール 26
 - ▼ ローカルまたはリモートのメディアを使用した Windows Server 2003 のインストール 27
- PXE ネットワーク環境経由での Windows Server 2003 のインストール 36
 - 作業を開始する前に 36
 - ▼ PXE 経由での Windows Server 2003 のインストール 37
- 3. Windows Server 2008 オペレーティングシステムのインストール 45
 - Windows Server 2008 をインストールする際の作業マップ 46
 - ローカルまたはリモートのメディアを使用した Windows Server 2008 のインストール 47
 - ▼ ローカルまたはリモートのメディアを使用した Windows Server 2008 のインストール 48
 - PXE ネットワーク経由での Windows Server 2008 のインストール 54
 - 作業を開始する前に 55
 - ▼ PXE 経由での Windows Server 2008 のインストール 56
- 4. インストール後の作業 59
 - サーバー固有ドライバのダウンロード 59
 - ▼ サーバー固有ドライバのダウンロード 60
 - サーバー固有のデバイスドライバのインストール 61
 - ▼ サーバー固有のデバイスドライバのインストール 61
 - 追加ソフトウェアのインストール 67
 - ▼ 追加ソフトウェアのインストール 69
 - Windows Server 2003 R2 SP2 用の Microsoft IPMI System Management ドライバの設定 70
 - ▼ Windows Server 2003 R2 SP2 用の Microsoft IPMI System Management ドライバの設定 71
 - Wake On LAN オプションの有効化 72
 - TPM オプションの設定 72

A.	WIM イメージまたは RIS イメージへの Sun Fire サーバードライバの組み込み	73
	必要なドライバの確認	74
	WIM イメージへのドライバの追加	75
	開始前のご注意	75
	▼ WIM イメージにドライバを追加するには	75
	RIS イメージへのドライバの追加	78
	開始前のご注意	78
	▼ RIS イメージにドライバを追加するには	79
	索引	85

はじめに

『Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバー Windows オペレーティングシステムインストールガイド』では、Windows Server 2003 または Windows Server 2008 オペレーティングシステムのインストール方法、およびサーバーを構成可能かつ使用可能な状態にするためのソフトウェアの初期設定の手順について説明します。

このマニュアルは、技術者、システム管理者、承認サービスプロバイダ (Authorized Service Provider, ASP)、およびオペレーティングシステムのインストールを行ったことがあるユーザーを対象としています。

製品のアップデート

Sun Fire X4170、X4175、および X4275 サーバーに関してダウンロード可能な製品アップデートについては、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.sun.com/download/index.jsp>

ハードウェアドライバのセクションを見つけて、「x64 Servers & Workstations」をクリックします。Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバーのサイトには、ファームウェアやドライバのアップデート、CD-ROM の .iso イメージのアップデートもあります。

関連マニュアル

次の表に記載されている関連マニュアルは、次の Web ページで入手できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sf.x4170?l=ja>

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sf.x4270?l=ja>

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sf.x4275?l=ja>

タイトル	内容	Part No.	形式
『Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバード使用にあたって』	サーバーに関する最新情報	820-7819	PDF HTML
『Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバード使用の手引き』	サーバーのセットアップに関する基本的なインストール情報	820-7801	PDF 印刷物
『Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバード設置マニュアル』	サーバーのセットアップに関する詳細なインストール情報	820-7804	PDF HTML 印刷物
『Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバード Solaris および Linux オペレーティングシステムインストールガイド』	Linux、VMware、および Solaris オペレーティングシステムのインストール手順	820-7807	PDF HTML
『Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバード Windows オペレーティングシステムインストールガイド』	Windows Server オペレーティングシステムのインストール手順	820-7810	PDF HTML
『Linux および Windows 用 Sun Installation Assistant ユーザーズガイド』	Windows および Linux オペレーティングシステムをインストールするための Sun Installation Assistant の使用手順	820-6352	PDF HTML
『Sun Fire X4170, X4270, and X4275 Servers Service Manual』	サーバーの管理やアップグレードに関する情報および手順	820-5830	PDF HTML
『Sun x64 サーバード診断ガイド』	サーバーの診断およびトラブルシューティングに関する情報	820-7813	PDF HTML
『x64 Servers Utilities Reference Manual』	x64 サーバードに共通のアプリケーションおよびユーティリティを使用するための情報	820-1120	PDF HTML
『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』	ILOM をサポートするサーバードおよびサーバードモジュールに共通の ILOM の機能および作業	820-2698	PDF HTML

タイトル	内容	Part No.	形式
『Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) 補足マニュアル Sun X4170、X4270、および X4275 サーバー』	Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバーに固有の ILOM に関する情報	820-7816	PDF HTML
『Sun Fire X4170, X4270, and X4275 Servers Safety and Compliance Guide』	ハードウェアの安全性とコンプライアンスに関するサーバー向けの情報	820-5832	PDF
『Important Safety Information for Sun Hardware Systems』	ハードウェアの安全性とコンプライアンスに関するすべての Sun 製ハードウェアシステム向けの多言語情報	816-7190	印刷物

これらのドキュメントの一部については、上記の Web サイトでフランス語、簡体字中国語、および日本語の翻訳版が入手可能です。英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun のサービス	URL
Sun のマニュアル	http://docs.sun.com
サポート	http://jp.sun.com/support/
トレーニング	http://jp.sun.com/training/

UNIX コマンド

このマニュアルには、システムの停止、システムの起動、およびデバイスの構成などに使用する基本的な UNIX[®] コマンドと操作手順に関する説明は含まれていない可能性があります。これらについては、以下を参照してください。

- システムに付属のソフトウェアマニュアル
- 次の場所にある Solaris[™] オペレーティングシステムのマニュアル
<http://docs.sun.com>

Sun 以外の Web サイト

このマニュアルで紹介する Sun 以外の Web サイトが使用可能かどうかについては、Sun は責任を負いません。このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、広告、製品、またはその他の資料についても、Sun は保証しておらず、法的責任を負いません。また、このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、商品、サービスの使用や、それらへの依存に関連して発生した実際の損害や損失、またはその申し立てについても、Sun は一切の責任を負いません。

書体と記号について

書体または記号*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	.login ファイルを編集します。 ls -a を実行します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	% su Password:
AaBbCc123	コマンド行の可変部分。実際の名前や値と置き換えてください。	rm filename と入力します。
『』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
「」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	% grep `^#define \ XV_VERSION_STRING`

* 使用しているブラウザにより、これらの設定と異なって表示される場合があります。

コメントをお寄せください

マニュアルの品質改善のため、お客様からのご意見およびご要望をお待ちしております。コメントは下記よりお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

ご意見をお寄せいただく際には、下記のタイトルと Part No. を記載してください。

『Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバー Windows オペレーティングシステムインストールガイド』、Part No. 820-7810-10。

第1章

オペレーティングシステムのインストールの計画

この章では、Sun Fire X4170、X4175、および X4275 サーバーにオペレーティングシステムをインストールする計画を適切に立てるために必要な情報について説明します。

この章は、次の節で構成されています。

- [2 ページの「サポート対象オペレーティングシステム」](#)
- [3 ページの「インストールの前提条件」](#)
- [5 ページの「インストール方法」](#)
- [10 ページの「新規インストールの BIOS 設定の確認」](#)

サポート対象オペレーティングシステム

Sun Fire X4170、X4175、および X4275 サーバーでは、次に示すオペレーティングシステム、またはこれらのオペレーティングシステムの後続リリースをインストールして使用することができます。

表 1-1 サポート対象オペレーティングシステム

オペレーティングシステム	サポート対象バージョン	参照先
Windows	<ul style="list-style-type: none">• Microsoft Windows Server 2003 Enterprise Edition (R2 SP2、または SP2) (32 ビットおよび 64 ビット)• Microsoft Windows Server 2003 Standard Edition (R2 SP2、または SP2) (32 ビットおよび 64 ビット)• Microsoft Windows Server 2008 Standard Edition (32 ビットまたは 64 ビット)• Microsoft Windows Server 2008 Enterprise Edition (32 ビットまたは 64 ビット)• Microsoft Windows Server 2008 Datacenter Edition (32 ビットまたは 64 ビット)	<ul style="list-style-type: none">• 17 ページの「Windows Server 2003 オペレーティングシステムのインストール」• 45 ページの「Windows Server 2008 オペレーティングシステムのインストール」
Linux	<ul style="list-style-type: none">• Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 4.7、32 ビットおよび 64 ビット• RHEL 5.3、64 ビット• SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 10 SP2、64 ビット	<ul style="list-style-type: none">• 『Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバー Linux、VMware、Solaris オペレーティングシステムインストールガイド』
Solaris	<ul style="list-style-type: none">• Solaris 10 10/08	
VMware	<ul style="list-style-type: none">• VMware ESX Server 3.5 Update 4• VMware ESXi 3.5 Update4	
OpenSolaris	<ul style="list-style-type: none">• OpenSolaris 2008.11	<ul style="list-style-type: none">• http://opensolaris.org/os/

あらかじめインストールされている Solaris 10 イメージ

Solaris 10 オペレーティングシステムイメージを注文した場合、ハードディスクドライブにあらかじめインストールされた状態で出荷されます。このドライブに別のオペレーティングシステムをインストールする必要がある場合は、次のいずれかを選択できます。

- ローカルドライブをパーティション分割して Solaris 10 OS イメージを削除する。

または

- オペレーティングシステムのデュアルブート設定をサポートするようにローカルドライブをパーティション分割する。

このガイドの後半に記載されている Windows オペレーティングシステムのインストール手順で、ドライブをパーティション分割して Solaris 10 イメージを削除する、またはオペレーティングシステムのデュアルブート設定をサポートするようにパーティション分割することができる、インストールプログラムのポイントについて説明します。

注 – あらかじめインストールされている Solaris 10 OS イメージの設定方法については、『Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバー設置マニュアル』(820-7804) のプリインストール版 Solaris 10 OS に関する章を参照してください。

インストールの前提条件

オペレーティングシステムをインストールする前に、次の要件を満たしておく必要があります。

表 1-2 OS のインストールの前提条件

要件	必須/任意	関連項目
サーバーをラックに取り付け、電源を入れます。	必須	• 『Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバー設置マニュアル』
サーバーの SP ネットワーク管理ポートの IP アドレスを設定します。	必須	• 『Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバー設置マニュアル』 または • 『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』
インストールを実行するためのコンソールオプションとメディアオプション、およびインストール先を選択します。	必須	• 5 ページの「インストール方法」

表 1-2 OS のインストールの前提条件 (続き)

要件	必須/任意	関連項目
BIOS ユーティリティの設定を出荷時のデフォルト設定にします。	推奨	<ul style="list-style-type: none"> 10 ページの「新規インストールの BIOS 設定の確認」
<p>ホストバスアダプタ (Host Bus Adapter, HBA) を用いて構成された SAS または SATA ディスクドライブで RAID セットを設定します (REM や FEM など)。HBA 付属のドキュメントを参照してください。</p>	<p>必須*</p> <p>OS のインストール先がローカルディスクドライブの場合。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 『Sun Fire X4170, X4270, and X4275 Servers Service Manual』(820-5830) (サーバーにディスクドライブを追加する、またはディスクドライブを交換する手順) 『Sun™ Disk Management Overview For x64 Sun Fire and Sun Blade Series Servers』(820-6350)
<p>該当するベンダーのオペレーティングシステムインストールドキュメントを入手します。</p> <p>注 – このガイドに記載されているオペレーティングシステムの説明と併せて、オペレーティングシステムベンダーのドキュメントを使用してください。</p>	推奨	<ul style="list-style-type: none"> 該当するオペレーティングシステムベンダーのドキュメント: <ul style="list-style-type: none"> Microsoft Windows 2003 製品ドキュメント: http://www.microsoft.com/windowsserver2003/proddoc/default.mspx Microsoft Windows 2008 製品ドキュメント: http://www.microsoft.com/windowsserver2008/en/us/product-documentation.aspx
<p>サーバーに同梱されている Tools and Drivers CD/DVD があることを確認します。</p> <p>注 – OS のインストールにデバイスドライバが必要な場合、デバイスドライバは Tools and Drivers DVD に収録されています。</p>	必須	<ul style="list-style-type: none"> Sun Fire X4170, X4175、および X4275 サーバーの Tools and Drivers DVD <p>または</p> <ul style="list-style-type: none"> Sun Fire X4170, X4175、および X4275 サーバーのダウンロード版の Tools and Drivers DVD (入手先: http://www.sun.com/servers/x64/x4170/downloads.jsp)
『Sun Fire X4170, X4270、および X4275 サーバーご使用にあたって』を見て、サポート対象のオペレーティングシステムソフトウェアおよびパッチに関する最新情報を確認します。	推奨	<ul style="list-style-type: none"> 『Sun Fire X4170, X4270、および X4275 サーバーご使用にあたって』

インストール方法

使用しているインフラストラクチャーに最適なインストール方法を決定する場合、次の各節に示されているオプションおよび要件を考慮してください。

- 5 ページの「コンソール出力」
- 7 ページの「インストール起動メディア」
- 9 ページの「インストール先」

コンソール出力

表 1-3 に、オペレーティングシステムをインストールする際の入出力の取得に使用できるコンソールを示します。

表 1-3 OS インストールを実行する際のコンソールオプション

コンソール	説明	セットアップ要件
ローカルコンソール	<p>ローカルコンソールをサーバー SP に直接接続することにより、OS のインストールやサーバー管理を行うことができます。</p> <p>ローカルコンソールの例としては、次のようなものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">• シリアルコンソール• VGA コンソール (USB キーボードおよびマウスを使用)	<ol style="list-style-type: none">1. ローカルコンソールをサーバーに接続します。 詳細は、『Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバー設置マニュアル』の「ILOM サービスプロセッサへの初めての接続」を参照してください。2. ILOM プロンプトで、ILOM のユーザー名とパスワードを入力します。3. シリアルコンソール接続のみの場合は、start /SP/console と入力して、ホストのシリアルポートへの接続を確立します。 ビデオ出力は自動的にローカルコンソールに送られます。サーバー SP への接続の確立については、『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』を参照してください。

表 1-3 OS インストールを実行する際のコンソールオプション (続き)

コンソール	説明	セットアップ要件
リモートコンソール*	<p>サーバー SP へのネットワーク接続を確立することにより、リモートコンソールから OS のインストールやサーバーの管理を行うことができます。</p> <p>リモートコンソールの例としては、次のようなものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Sun ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用した Web ベースのクライアント接続 • シリアルコンソールを使用した SSH クライアント接続 	<ol style="list-style-type: none"> 1. サーバー SP の IP アドレスを設定します。 詳細は、『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』を参照してください。 2. リモートコンソールとサーバー SP 間の接続を確立します。 <ul style="list-style-type: none"> • Web ベースのクライアント接続の場合は、次の手順を実行します。1) Web ブラウザで、サーバー SP の IP アドレスを入力します。2) ILOM Web インタフェースにログインします。3) Sun ILOM リモートコンソールを起動して、サーバーからのビデオ出力を Web クライアントにリダイレクトします。4) 「Device」メニューでデバイスのリダイレクト (マウス、キーボードなど) を有効にします。 • SSH クライアント接続の場合は、次の手順を実行します。1) シリアルコンソールから、サーバー SP への SSH 接続を設定します (<code>ssh root@ipaddress</code>)。2) ILOM コマンド行インタフェースにログインします。3) <code>start /SP/console</code> と入力して、サーバーからのシリアル出力を SSH クライアントにリダイレクトします。 <p>ILOM SP へのリモート接続の確立や Sun ILOM リモートコンソールの使用方法については、『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』を参照してください。</p>

インストール起動メディア

サーバーへのオペレーティングシステムのインストールは、ローカルまたはリモートのインストールメディアソースを起動することにより開始できます。表 1-4 に、サポートされているメディアソース、および各ソースのセットアップの要件を示します。

表 1-4 OS のインストールを実行するための起動メディアオプション

インストールメディア	説明	セットアップ要件
ローカル起動メディア	<p>ローカル起動メディアを使用する場合、組み込み型のストレージデバイスまたは外部ストレージデバイスがサーバーに取り付けられていることが必要です。</p> <p>サポートされる OS のローカル起動メディアソースには、次のようなものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">• CD/DVD-ROM インストールメディア、および該当する場合はフロッピーデバイスドライバメディア	<p>ローカル起動メディアを使用してインストールを行うには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none">1. サーバーに組み込み型のストレージデバイスが搭載されていない場合は、USB コネクタを使用して、サーバーのフロントパネルに適切なストレージデバイスを接続します。2. サーバーにローカルデバイスを接続する方法については、『Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバー設置マニュアル』の「サーバーの設定」を参照してください。 <p>注 - Sun Fire X4275 サーバーの場合は、フロントパネルに CD/DVD-ROM ドライブも USB コネクタも付いていないので、Sun ILOM リモートコンソールを使用してリモートストレージデバイスから起動メディアをリダイレクトします。詳細は、この表内のリモート起動メディアに関する説明を参照してください。</p>

表 1-4 OS のインストールを実行するための起動メディアオプション (続き)

インストールメディア	説明	セットアップ要件
リモート起動メディア	<p>リモートメディアを使用する場合は、ネットワーク上でインストールを開始する必要があります。リダイレクトされた起動ストレージデバイスから、または Pre-Boot eXecution Environment (PXE) を使用してネットワーク上でインストールをエクスポートするネットワーク上の別のシステムから、ネットワークインストールを開始できます。</p> <p>サポートされる OS のリモートメディアソースには、次のようなものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CD/DVD-ROM インストールメディア、および該当する場合はフロッピーデバイスドライバメディア • CD/DVD-ROM の ISO インストールイメージ、および該当する場合はフロッピーの ISO デバイスドライバメディア • 自動インストールイメージ (PXE 起動が必要) 	<p>リモートストレージデバイスから起動メディアをリダイレクトするには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ストレージデバイスに起動メディアを挿入します。 <ul style="list-style-type: none"> • CD/DVD-ROM の場合は、組み込み型または外付けの CD/DVD-ROM ドライブにメディアを挿入します。 • CD/DVD-ROM の ISO イメージの場合は、ISO イメージがネットワーク共有の場所に保存されていていつでも利用できる状態であることを確認します。 • デバイスドライバフロッピーの ISO イメージの場合は、ISO イメージがネットワーク共有の場所、またはサムドライブに保存されていていつでも利用できる状態であることを確認します。 2. サーバー ILOM SP への Web ベースのクライアント接続を確立し、Sun ILOM リモートコンソールアプリケーションを起動します。 <p>詳細は、表 1-3 に記載されている Web ベースのクライアント接続のセットアップ要件を参照してください。</p> 3. Sun ILOM リモートコンソールアプリケーションの「Device」メニューで、起動メディアの場所を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • CD/DVD-ROM 起動メディアの場合は、「CD-ROM」を選択します。 • CD/DVD-ROM の ISO イメージの場合は、「CD-ROM Image」を選択します。 • フロッピーデバイスドライバ起動メディアの場合は、「Floppy」を選択します (該当する場合)。 • フロッピーイメージのデバイスドライバ起動メディアの場合は、「Floppy Image」を選択します (該当する場合)。 <p>Sun ILOM リモートコンソールについては、『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』を参照してください。</p>

表 1-4 OS のインストールを実行するための起動メディアオプション (続き)

インストールメディア	説明	セットアップ要件
リモート起動メディア (続き)	<p>注 - 自動インストールイメージでは、複数のサーバーに対して OS のインストールを行うことができます。自動イメージを使用することにより、複数のシステム間で設定を統一させることができます。</p> <p>自動インストールでは、Pre-boot eXecution Environment (PXE) テクノロジを使用して、オペレーティングシステムのインストールを実行する自動インストールサーバーから離れた場所にある、オペレーティングシステムを持たないクライアントを起動できるようになっています。</p>	<p>PXE を使用したインストールを行うには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PXE 起動を使用してインストールをエクスポートするようにネットワークサーバーを構成します。 2. PXE 起動で OS インストールメディアを利用できるようにします。自動 OS インストールイメージを使用する場合は、次のような自動 OS インストールイメージを作成して使用する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> • Solaris JumpStart イメージ • RHEL KickStart イメージ • SLES AutoYaST イメージ • Windows RIS または WDS イメージ <p>インストールのセットアッププロセスを自動化する方法については、オペレーティングシステムベンダーのドキュメントを参照してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. インストールメディアを起動するために、PXE 起動インタフェースカードを一時起動デバイスとして選択します。詳細は、この章の後半で説明する PXE ベースのオペレーティングシステムのインストール手順を参照してください。

インストール先

表 1-5 に、オペレーティングシステムをインストールするために使用可能なサポートされているインストール先を示します。

表 1-5 OS をインストールできるインストール先

インストール先	説明	セットアップ要件	サポートされている OS
ローカルハードディスクドライブ (Hard Disk Drive、HDD) またはソリッドステートドライブ (Solid State Drive、SSD)	サーバーに取り付けられているハードドライブまたは SSD はどれでも、オペレーティングシステムのインストール先として選択できます。	<ul style="list-style-type: none"> • HDD または SSD がサーバーに正しく取り付けられていて、電源が入っていることを確認します。 <p>HDD または SSD の取り付けおよび電源投入については、サーバーに付属の設置マニュアルまたはサービスマニュアルを参照してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 表 1-1 に記載されているすべてのオペレーティングシステム。

表 1-5 OS をインストールできるインストール先 (続き)

インストール先	説明	セットアップ要件	サポートされている OS
ファイバチャネル (Fibre Channel, FC) ストレージエリアネットワーク (Storage Area Network, SAN) デバイス	ファイバチャネル PCI ホストバスアダプタ (Host Bus Adapter, HBA) を搭載しているシャーシシステムの場合、オペレーティングシステムのインストール先として外部 FC ストレージデバイスを選択することができます。	<ul style="list-style-type: none"> FC PCI HBA がシャーシに正しく取り付けられていて稼働していることを確認します。シャーシに HBA を取り付けの方法については、『Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバー設置マニュアル』を参照してください。 ホストでストレージを認識できるように SAN を設置および設定します。手順については、FC HBA に付属のドキュメントを参照してください。 	<ul style="list-style-type: none"> 表 1-1 に記載されているすべてのオペレーティングシステム。

新規インストールの BIOS 設定の確認

ハードディスクドライブに新しくインストールするすべてのオペレーティングシステムについて、インストールを実行する前に、次の BIOS 設定が適切に設定されているかどうか確認するようにしてください。

- システム時刻
- システム日付
- 起動順序

BIOS 設定ユーティリティで、最適なデフォルト値を設定したり、必要に応じて BIOS 設定を表示して編集したりできます。F2 を使って BIOS 設定ユーティリティで変更した設定はすべて、次回に設定変更するまで常時使用されます。

注 – 必要な場合は、BIOS の起動中に F8 を押すことにより、一時起動デバイスを指定できます。一時起動デバイスの設定は、その時点のシステム起動に対してのみ有効であることを注意してください。システムが一時起動デバイスから起動した後は、F2 を使用して BIOS で指定した常時起動デバイス設定が有効になります。

作業を開始する前に

BIOS 設定ユーティリティにアクセスする前に、次の要件を満たしていることを確認します。

- サーバーがラックに設置済みで、電源が入っている。詳細は、『Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバー設置マニュアル』を参照してください。
- サーバーにハードディスクドライブ (Hard Disk Drive、HDD) またはソリッドステートドライブ (Solid State Drive、SSD) が装備されている。
- HDD または SSD がサーバーに正しく取り付けられている。詳細は、『Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバー設置マニュアル』を参照してください。
- サーバーへのコンソール接続が確立されている。詳細については、[5 ページの「コンソール出力」](#)を参照してください。

▼ 新規インストールの BIOS 設定の表示または編集

1. サーバーの電源を入れ直します。

たとえば、次のように入力します。

- **ILOM Web インタフェース**で、「Remote Control」--> 「Remote Power Control」タブを選択し、「Host action」ドロップダウンリストボックスから「Power Cycle」を選択します。
- **ローカルサーバー**で、フロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押してサーバーの電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押して電源を入れます。
サーバーの電源の切断と投入については、『Sun Fire X4170, X4275, and X4275 Servers Service Manual』を参照してください。

- ILOM CLI で、`reset /SYS` と入力します。

BIOS 画面が表示されます。

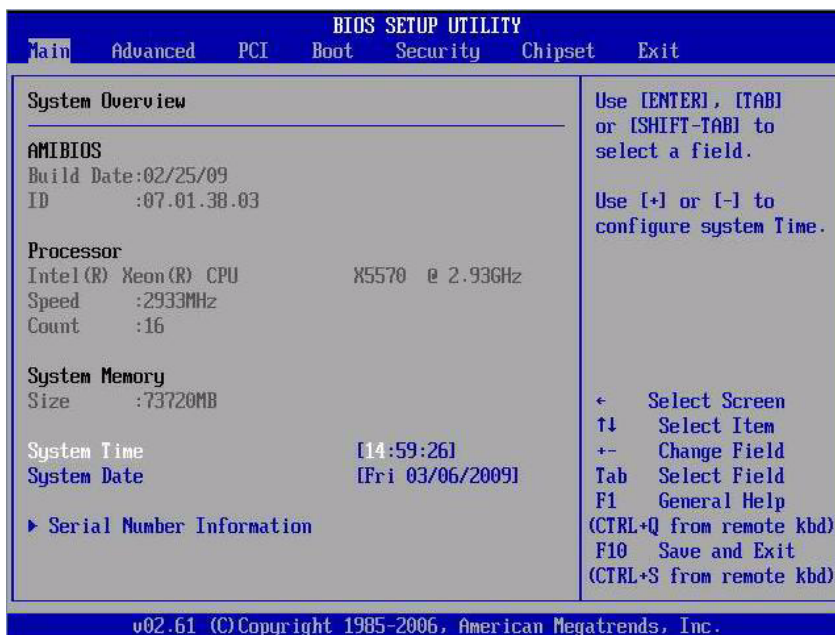
```
www.ami.com American Megatrends Sun microsystems®
BIOS(C) 2006 American Megatrends, Inc.
BIOS Date: 02/25/09 16:04:09 Ver: 08.00.15
BIOS Revision: 07.01.38.03
Fire X4170 Server CPU Power (TDP Limit) = 95 Watts
Product Serial Number:0000000000
: Intel(R) Xeon(R) CPU X5570 @ 2.93GHz
Speed : 2.93 GHz Count : 16

Press F2 to run Setup (CTRL+E on Remote Keyboard)
Press F12 if you want to boot from the network (CTRL+M on Remote Keyboard)
Press F8 for BBS POPUP (CTRL+P on Remote Keyboard)
Operational Speed at : 6.4GT/s
Firmware Revision: 2.0.2.9
Initializing USB Controllers ..

American Megatrends, Inc.
```


2. BIOS 画面にプロンプトが表示されたら、F2 を押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。

数秒後、BIOS 設定ユーティリティが表示されます。



3. 出荷時のデフォルト値に設定するために、次の手順を実行します。
 - a. F9 を押し、出荷時の最適なデフォルト設定を自動的に読み込みます。

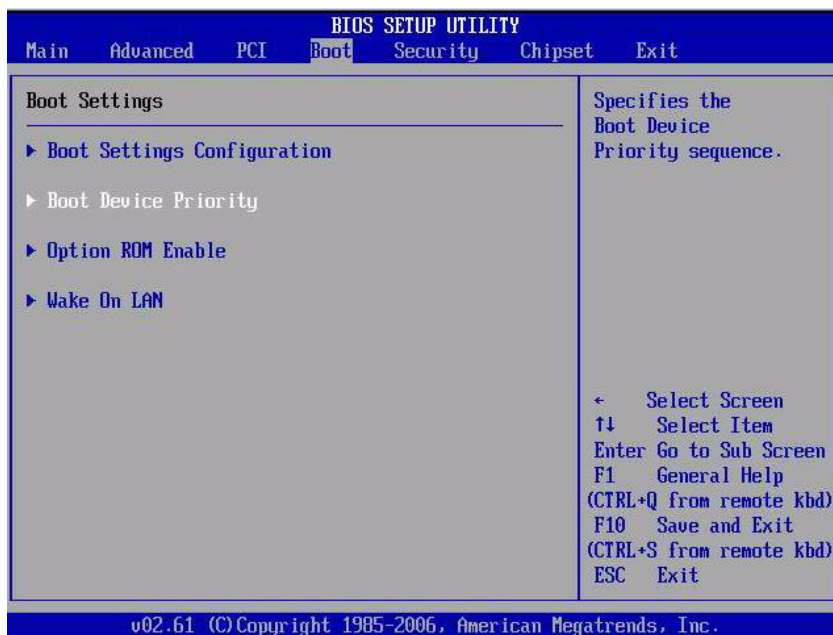
この操作を続行する場合は「OK」を、キャンセルする場合は「CANCEL」を選択するよう求めるメッセージが表示されます。
 - b. メッセージ内の「OK」を選択し、Enter キーを押します。

BIOS 設定ユーティリティ画面で、カーソルがシステム時刻フィールドに移動し最初の値が強調表示されます。
4. BIOS 設定ユーティリティで、システム時刻またはシステム日付に関する値を編集するために次の手順を実行します。
 - a. 変更する値を強調表示します。

システム時刻とシステム日付の選択状態を変更するには、矢印キーを使用します。
 - b. 強調表示されているフィールド内の値を変更するには、次のキーを使用します。
 - プラス (+) を押すと、表示されている現在の値が大きくなります。
 - マイナス (-) を押すと、表示されている現在の値が小さくなります。
 - ENTER キーを押すと、カーソルが次の値フィールドに移動します。

5. 起動の設定にアクセスするには、BIOS 設定ユーティリティーのメニューバーから「起動 (Boot)」を選択します。

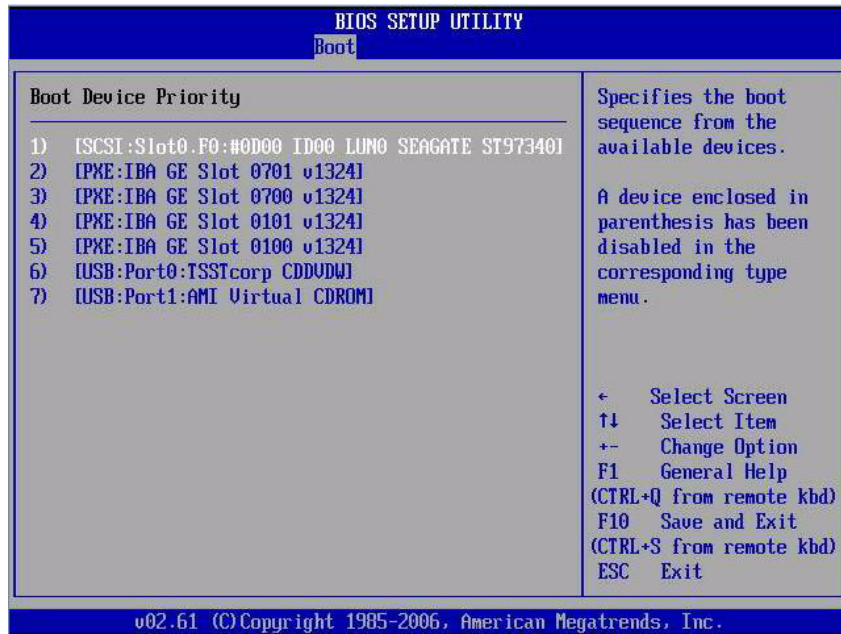
「起動設定 (Boot Settings)」ダイアログが表示されます。



6. 「起動設定 (Boot Settings)」ダイアログで、下矢印キーを使用して「起動デバイスの優先度 (Boot Device Priority)」を選択してから、Enter キーを押します。

「起動デバイスの優先度 (Boot Device Priority)」ダイアログが開き、既知の起動デバイスが優先順に表示されます。

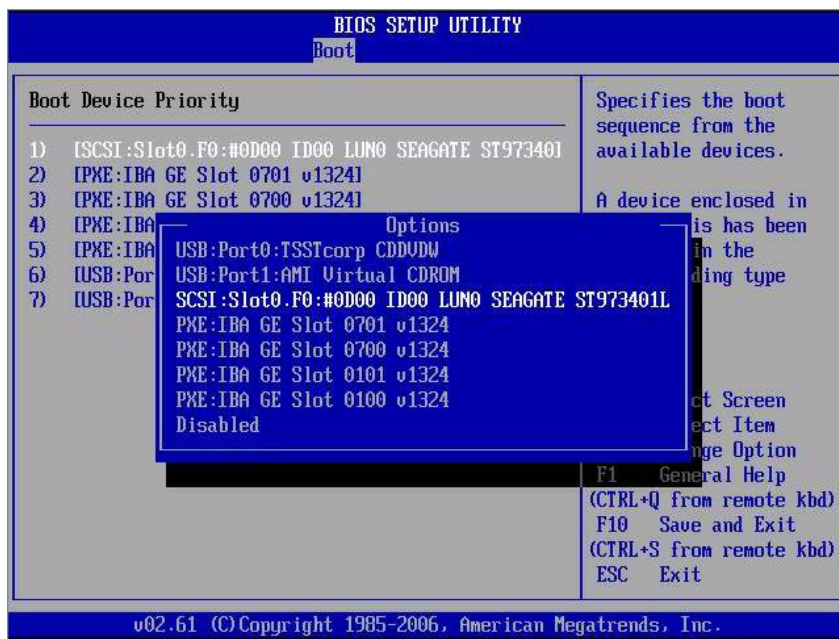
実際の画面に表示される起動デバイスの順序は、この下のダイアログの例に表示されているデバイスの順序とは異なる場合があります。



リストの先頭のデバイスが、起動の優先度がもっとも高いデバイスです。

7. 「起動デバイスの優先度 (Boot Device Priority)」ダイアログで、リストの先頭の起動デバイスを編集するために次の手順を実行します。
- 上下矢印キーを使用してリストの先頭のデバイスを選択し、Enter キーを押します。
 - 「オプション (Options)」タブで、上下矢印キーを使用してデフォルトの常時起動デバイスを選択し、Enter キーを押します。

実際の画面に表示される起動オプションは、下の画面例に表示されているオプションとは異なる場合があります。



「起動 (Boot)」ダイアログおよび「オプション (Options)」タブに表示されるデバイス文字列は、デバイスのタイプ、スロットインジケータ、製品 ID 文字列、という形式になっています。

注 - リスト内のほかのデバイスについても、それぞれのデバイスに対して手順 7a と 7b を繰り返すことによって起動順序を変更できます。

8. 変更内容を保存して BIOS 設定ユーティリティを終了するために、F10 を押します。

注 - Sun ILOM リモートコンソールを使用している場合、F10 はローカル OS によってトラップされます。リモートコンソールの上部にある「キーボード (Keyboard)」ドロップダウンメニューに表示される F10 オプションを使用してください。

あるいは、「終了 (Exit)」メニューの「保存 (Save)」を選択して、変更を保存し BIOS セットアップユーティリティを終了することもできます。

変更を保存してセットアップを終了することを確認するメッセージが表示されます。

9. メッセージダイアログで「OK」を選択し、Enter キーを押します。

第2章

Windows Server 2003 オペレーティングシステムのインストール

注 - ディスクを RAID 構成にする場合、OS をインストールする前にハードウェア RAID を構築することをお勧めします。詳細は、『Sun Disk Management Overview, for x64 Sun Fire and Sun Blade Series Servers』(820-6350) を参照してください。

この章では、Windows Server 2003 オペレーティングシステム (Operating System、OS) のインストールについて説明します。

この章では、次の項目について説明します。

- 18 ページの「Windows Server 2003 をインストールする際の作業マップ」
- 20 ページの「起動時のデバイスドライバ」
- 20 ページの「インストールに必要な大容量記憶装置ドライバの準備」
- 26 ページの「ローカルまたはリモートのメディアを使用した Windows Server 2003 のインストール」
- 36 ページの「PXE ネットワーク環境経由での Windows Server 2003 のインストール」

Windows Server 2003 をインストールする際の作業マップ

表 2-1 を使用して、一連の作業として定義されているインストール手順を確認してください。この表には、必要な作業、およびその作業の実行手順の参照先が記載されています。

表 2-1 Windows Server 2003 をインストールする際の作業マップ

手順	作業	説明	関連項目
1	インストール要件を確認します	オペレーティングシステムをサーバーにインストールするためのすべての適用条件を満たしていることを確認します。	• 3 ページの表 1-2 「OS のインストールの前提条件」
2	インストール方法を選択します	使用しているインフラストラクチャーの要件を満たすインストール方法を検討して選択します。	• 5 ページの「インストール方法」
3	BIOS の設定を出荷時のデフォルト設定にします	オペレーティングシステムのインストールを行う前に、BIOS の設定が出荷時のデフォルト設定になっていることを確認します。	• 10 ページの「新規インストールの BIOS 設定の確認」
4	Windows のインストールメディアを用意します	Windows OS には、CD/DVD メディア、および Windows OS をインストールする際に必要となるドキュメントが付属しています。	• Windows 2003 のメディアは次の場所でダウンロードまたは注文できます。 http://www.microsoft.com
5	サーバー固有のドライバをダウンロードするか、または Tools and Driver CD から入手します	使用しているシステムによっては、起動時にいくつかのデバイスドライバをインストールする必要があります。これらのドライバは、Sun ダウンロードサイトから、または Tools and Drivers CD/DVD から入手できます。	• 60 ページの「サーバー固有ドライバのダウンロード」
6	大容量記憶装置ドライバを準備します	Windows 2003 のインストールに必要な大容量記憶装置ドライバのフロッピーを作成します。	• 20 ページの「インストールに必要な大容量記憶装置ドライバの準備」

表 2-1 Windows Server 2003 をインストールする際の作業マップ (続き)

手順	作業	説明	関連項目
7	Windows OS のインストールを実行します	この章の手順に従って Windows 2003 オペレーティングシステムをインストールします。	<ul style="list-style-type: none"> • 26 ページの「ローカルまたはリモートのメディアを使用した Windows Server 2003 のインストール」 • 36 ページの「PXE ネットワーク環境経由での Windows Server 2003 のインストール」
8	必要に応じて、ドライバや追加ソフトウェアをインストールし、インストール後の処理を行います	<p>使用しているシステムをサポートするために必要なデバイスドライバが Windows オペレーティングシステムに含まれていない場合は、追加のデバイスドライバをインストールする必要があります。</p> <p>システムに RAID コントローラが搭載されている場合は、それらのコントローラをサポートするための追加ソフトウェアをインストールする必要がある場合があります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 59 ページの「インストール後の作業」
9	必要に応じて、Wake On LAN 機能を有効にします	必要な場合は、このサーバーの Wake On LAN 機能を有効にします。	<ul style="list-style-type: none"> • 59 ページの「インストール後の作業」

注 – Microsoft Windows オペレーティングシステムの全インストールプロセスについては、この節では説明していません。この節では、Windows Server 2003 メディアの起動、起動時のドライバのインストール (必要な場合)、およびドライブのパーティション分割に関する手順について説明します。詳細は、次のサイトにある Microsoft Windows 2003 の製品ドキュメントを参照してください。

<http://www.microsoft.com/windowsserver2003/proddoc/default.msp>

起動時のデバイスドライバ

表 2-2 に、Windows Server 2003 のインストールを実行する際、起動時にインストールが必要となることがあるデバイスドライバを示します。

表 2-2 起動時にインストールする Windows 2003 Server 固有のドライバ

デバイスドライバ	説明
Intel SATA ドライバ	ローカルの SATA ハードディスクドライブ (Hard Disk Drive、HDD) にインストールする場合、Intel SATA デバイスドライバが起動時に必要です。
LSI SAS/SATA RAID ドライバ	ローカルの SAS または SATA ハードディスクドライブ (Hard Disk Drive、HDD) にインストールする場合、LSI SAS/SATA デバイスドライバが起動時に必要です。
Sun StorageTek SAS/SATA RAID ドライバ	ローカルの SAS または SATA ハードディスクドライブ (Hard Disk Drive、HDD) にインストールする場合、Sun StorageTek SAS/SATA デバイスドライバが起動時に必要です。
QLogic SAN ドライバ	インストール先が QLogic ファイバチャネルストレージエリアネットワーク (Storage Area Network、SAN) デバイスの場合、QLogic FC (Fibre Channel、FC) デバイスドライバを起動時にインストールする必要があります。
Emulex SAN ドライバ	インストール先が Emulex FC SAN デバイスの場合、Emulex FC デバイスドライバを起動時にインストールする必要があります。

表 2-2 に示されている起動時デバイスドライバは、サーバーに付属している Tools and Drivers CD/DVD に収録されています。ただし、Tools and Drivers CD/DVD がお手元がない場合は、これらと同じドライバを Sun ダウンロードサイトからダウンロードできます。起動時デバイスドライバが含まれているサーバー固有のドライバパッケージのダウンロード方法については、59 ページの「サーバー固有ドライバのダウンロード」を参照してください。

インストールに必要な大容量記憶装置ドライバの準備

この節では、ローカルまたはリモートで Windows Server 2003 をインストールする際に必要な大容量記憶装置ドライバのメディアを準備する方法について説明します。

大容量記憶装置ドライバは、フロッピーディスクに準備することも、フロッピーイメージとして準備することもできます。表 2-3 を参照してください。

表 2-3 大容量記憶装置ドライバ用メディアのオプション

メディアオプション	手順記載セクション
フロッピーディスク (ローカルまたはリモート)	21 ページの「デバイスドライバ用フロッピーディスクの作成」
フロッピーイメージ	24 ページの「デバイスドライバ用フロッピーイメージの準備」

デバイスドライバ用フロッピーディスクの作成

Windows 2003 に必要なデバイスドライバを保存するためのフロッピーディスクを作成する場合は、この節の次の手順を実行します。

作業を開始する前に

次の手順を実行してフロッピーディスクを作成する前に、必ず次の要件を満たしていることを確認してください。

- フロッピーディスクを作成する際に使用するシステムが USB フロッピードライブに接続されている
- フロッピーディスクメディアが使用可能である
- FloppyPack_x_x_x.zip ファイルが使用可能である

FloppyPack_x_x_x.zip ファイルは Tools and Drivers CD/DVD に収録されていますが、Sun ダウンロードサイトからダウンロードすることもできます。Sun のサイトからダウンロードする方法については、59 ページの「サーバー固有ドライバのダウンロード」を参照してください。

注 - _x_x_x の数字は、パッケージのバージョンを表します (例: FloppyPack_1_1_4.zip)。

▼ デバイスドライバのインストール用フロッピーディスクの作成

Sun では、フロッピーディスクを簡単に作成できる Sun 大容量記憶装置ドライバディスク作成ウィザードを提供しています。Sun 大容量記憶装置ドライバディスク作成ウィザードを使用してフロッピーディスクを作成するには、次の手順に従います。

1. Sun 大容量記憶装置ドライバディスク作成ウィザードを、次のいずれかのメディアソースから起動します。

- **Tools and Driver CD**

次の手順を実行してウィザードを起動します。

- a. Tools and Drivers CD/DVD を、CD/DVD ドライブを搭載した Windows システムに挿入します。

CD は自動的に起動します。

- b. メインメニューで、「Windows Server 2003 用大容量記憶装置ドライバディスクの作成 (Make a Windows Server 2003 Mass-Storage Driver Disk)」をクリックしてから、[手順 2](#)に進みます。

大容量記憶装置ドライバディスク作成ウィザードの「ようこそ (Welcome)」ページが表示されます。

または

- **FloppyPack_x_x_x.zip** ファイル (Sun ダウンロードサイトから入手)

次の手順を実行して、ファイルをコピーして解凍し、ウィザードを起動します。

- a. Microsoft Windows ソフトウェアを実行している、フロッピードライブを搭載したシステムで、FloppyPack_x_x_x.zip ファイルを一時ディレクトリにコピーします。
- b. Windows エクスプローラを起動します。
- c. ダウンロードしたファイルを保存したフォルダに移動します。
- d. FloppyPack_x_x_x.zip を選択します。
- e. 「ファイル」メニューの「すべて展開」をクリックし、ファイルを新しい (空の) フォルダに展開します。

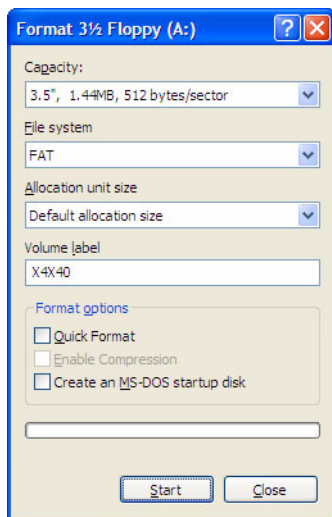
注 – 使用しているバージョンの Windows エクスプローラで圧縮フォルダがサポートされていない場合は、サードパーティーのユーティリティを使用して zip ファイルの中身を展開します。展開後、ディレクトリ構造を変更しないようにしてください。

- f. Windows エクスプローラを起動し、展開したファイルが入ったフォルダに移動します。
- g. Windows エクスプローラで、展開したファイルが入ったディレクトリを開いて、mkfloppy.exe のウィザードをダブルクリックしてから、[手順 2](#)に進みます。
大容量記憶装置ドライバディスク作成ウィザードの「ようこそ (Welcome)」ページが表示されます。

2. 大容量記憶装置ドライバディスク作成ウィザードの「ようこそ (Welcome)」ページで、次の手順を実行します。
 - a. 「次へ (Next)」をクリックし、ウィザードに表示される指示に従って、使用しているサーバー用の大容量記憶装置ドライバのフロッピーディスクを作成します。
 - b. プロンプトが出されたら、空のフロッピーディスクをドライブ A: に挿入します。
「フォーマット - 3.5 インチ FD (A:)」ダイアログボックスが表示されます。



3. 「フォーマット - 3.5 インチ FD (A:)」ダイアログボックスで、「開始」ボタンをクリックしてフォーマットを開始します。



4. フロッピーディスクのフォーマットが完了したら、「閉じる」ボタンをクリックします。
「フォーマット - 3.5 インチ FD (A)」ページが閉じ、大容量記憶装置ドライバディスク作成ウィザードに戻ります。
5. 「次へ (Next)」をクリックし、ウィザードに表示される指示に従って、大容量記憶装置ドライバのフロッピーディスク作成を終了します。
6. 26 ページの「ローカルまたはリモートのメディアを使用した Windows Server 2003 のインストール」に進みます。

デバイスドライバ用フロッピーイメージの準備

Windows 2003 に必要なデバイスドライバをインストールするためにフロッピーイメージメディアを使用する場合は、この節で説明する次の手順を実行します。

作業を開始する前に

次の手順を実行してデバイスドライバをインストールするためのフロッピーイメージを準備する前に、必ず次の要件を満たしていることを確認してください。

- Tools and Drivers CD/DVD から、または 59 ページの「サーバー固有ドライバのダウンロード」に記載されている Sun ダウンロードサイトから、FloppyPack_x_x_x.zip ドライバパッケージを入手します。
- Sun ILOM リモートコンソールをホストするシステムは、ローカルで、またはネットワーク経由で、FloppyPack_x_x_x.zip ドライバパッケージにアクセスできる必要があります。

▼ デバイスドライバのインストール用フロッピーイメージの準備

1. 次のいずれかのメディアソースから、デバイスドライバが含まれているフロッピーイメージファイル入手します。
 - Tools and Drivers CD/DVD
次の手順を実行してフロッピーパッケージにアクセスします。
 - a. CD を Sun ILOM リモートコンソールシステムに挿入します。
 - b. 次のディレクトリに移動します。
`windows\w2k3\packages\FloppyPack\image`
 - c. [手順 2](#) に進みます。
 - FloppyPack.zip ファイル (Sun ダウンロードサイトから入手)
 - a. FloppyPack_x_x_x.zip ファイルを一時ディレクトリにコピーします。
 - b. Windows エクスプローラを起動します。
 - c. ダウンロードしたファイルを保存した一時フォルダに移動します。
 - d. FloppyPack_x_x_x.zip を選択します。
 - e. 「ファイル」メニューの「すべて展開」をクリックし、新しい空のフォルダに展開します。

注 – 使用しているのバージョンの Windows エクスプローラで圧縮フォルダがサポートされていない場合は、サードパーティーのユーティリティを使用して zip ファイルの中身を展開します。展開後、ディレクトリ構造を変更しないようにしてください。

- f. 展開したファイルが入った image フォルダに移動し、[手順 2](#) に進みます。
2. 適切なフロッピーイメージファイル (たとえば `intelsmilsimg`) を、Windows のインストール中に Sun ILOM リモートコンソールシステムがアクセスできるローカルフォルダまたはネットワーク共有フォルダにコピーします。
Sun ILOM リモートコンソールでイメージファイルメディアのリダイレクトを有効にする方法については、『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』を参照してください。
3. [26 ページ](#)の「ローカルまたはリモートのメディアを使用した Windows Server 2003 のインストール」に進みます。

ローカルまたはリモートのメディアを使用した Windows Server 2003 のインストール

次の手順では、ローカルまたはリモートのメディアから Windows Server 2003 オペレーティングシステムを起動する方法について説明します。ここでは、次のいずれかのソースから Windows のインストールメディアを起動するものとします。

- Windows CD または DVD (内蔵または外付けの CD/DVD)
- Windows 2003 ISO イメージ (ネットワークリポジトリ)

注 – PXE 環境からインストールメディアを起動する場合は、[36 ページの「PXE ネットワーク環境経由での Windows Server 2003 のインストール」](#)を参照してください。

作業を開始する前に

インストールを実行する前に、次の要件を満たしていることが必要です。

- オペレーティングシステムのインストールに関する前提条件をすべて満たしている。これらの前提条件については、[3 ページの表 1-2 「OS のインストールの前提条件」](#)を参照してください。
- インストールの実行前に、インストール方法 (コンソール、起動メディア、インストール先など) を検討し、すでに決定している。これらのセットアップ要件については、[5 ページの「インストール方法」](#)を参照してください。

この手順を完了した後、[59 ページの「インストール後の作業」](#)で説明するインストール後の作業を行う必要があります。

▼ ローカルまたはリモートのメディアを使用した Windows Server 2003 のインストール

1. インストールメディアが起動可能な状態であることを確認します。

注 – Sun Fire X4275 サーバーの場合は、フロントパネルに CD/DVD-ROM ドライブも USB コネクタも付いていないので、Sun ILOM リモートコンソールを使用してリモートストレージデバイスから起動メディアをリダイレクトします。詳細は、[7 ページの表 1-4 「OS のインストールを実行するための起動メディアオプション」](#)に記載されているリモート起動メディアに関する説明を参照してください。

たとえば、次のように入力します。

- **Distribution CD/DVD の場合** – Windows 2003 ディストリビューションメディア (番号 1 が付いた CD または 1 枚の DVD) をローカルまたはリモートの USB CD/DVD-ROM ドライブに挿入します。
- **ISO イメージの場合** – ISO イメージを入手済みで、かつ ILOM リモートコンソールアプリケーションが 1 番目の ISO イメージの場所を認識していることを確認します。


インストールメディアの設定方法については、[7 ページの表 1-4 「OS のインストールを実行するための起動メディアオプション」](#)を参照してください。

2. サーバーの電源を入れ直します。


たとえば、次のように入力します。

- **ILOM Web インタフェースで**、「Remote Control」--> 「Remote Power Control」タブを選択し、「Host action」ドロップダウンリストボックスから「Power Cycle」を選択します。
- **ローカルサーバーで**、フロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押してサーバーの電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押して電源を入れます。
サーバーの電源の切断と投入については、『Sun Fire X4170, X4275, and X4275 Servers Service Manual』を参照してください。
- **ILOM CLI で**、`reset /sys` と入力します。

BIOS 画面が表示されます。



American
Megatrends
www.ami.com

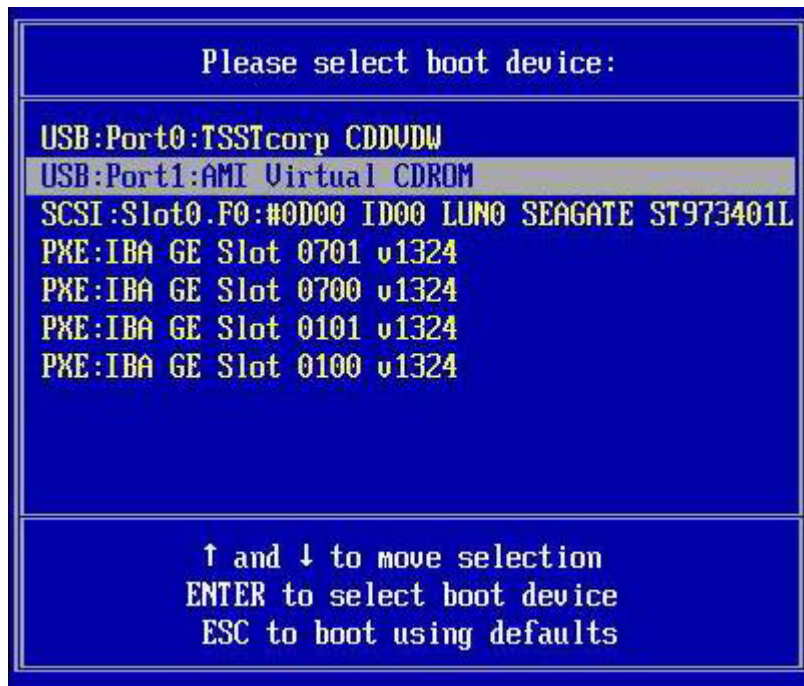


Sun
microsystems®

```
AMIBIOS (C) 2006 American Megatrends, Inc.  
BIOS Date: 02/25/09 16:04:09 Ver: 08.00.15  
Sun BIOS Revision: 07.01.38.03  
Sun Fire X4170 Server CPU Power (TDP Limit) = 95 Watts  
Product Serial Number:0000000000  
CPU : Intel(R) Xeon(R) CPU X5570 @ 2.93GHz  
Speed : 2.93 GHz Count : 16  
  
Press F2 to run Setup (CTRL+E on Remote Keyboard)  
Press F12 if you want to boot from the network (CTRL+N on Remote Keyboard)  
Press F8 for BBS POPUP (CTRL+P on Remote Keyboard)  
QPI Operational Speed at : 6.4GT/s  
BMC Firmware Revision: 2.0.2.9  
Initializing USB Controllers ..  
  
(C) American Megatrends, Inc.  
64-3047-009999-00101111-022509-TYLSBURG-3AB0M03B-Y2KC 6B3B
```

3. BIOS POST 画面に「BBS ポップアップを表示するには F8 を押します (Press F8 for BBS POPUP)」というプロンプトが表示されたら、F8 を押します。
BBS POPUP メニューで起動デバイスを選択できます。
4. BIOS POST プロセスが完了すると、「起動デバイス (Boot Device)」メニューが表示されます。

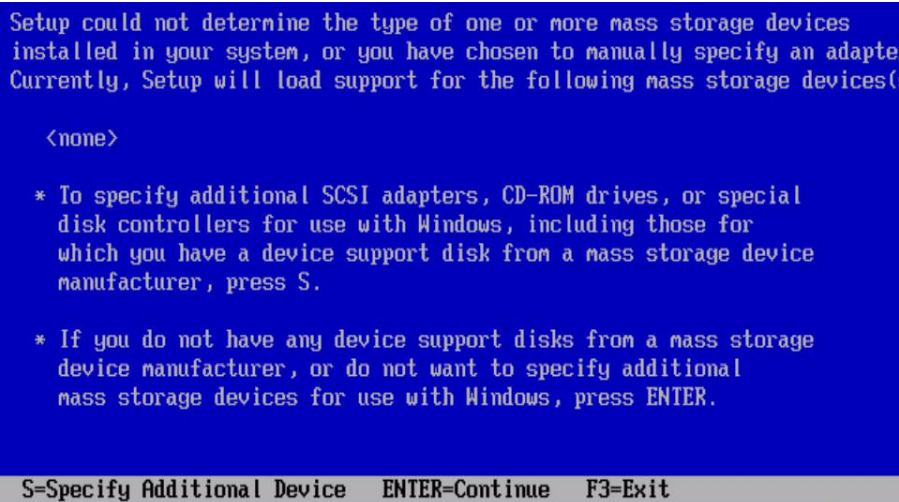
注 - 実際のインストール時に表示される画面は、サーバーに取り付けられているディスクコントローラのタイプによって異なる場合があります。



5. 「起動デバイス (Boot Device)」メニューで、使用対象として選択した Windows メディアインストール方法に基づいて起動デバイスを選択し、Enter キーを押します。
たとえば、次のように入力します。
 - Windows のローカルデリバリを選択した場合は、「CD/DVDW」を選択します。
 - ILOM リモートコンソールを使用したインストールを選択した場合は、「仮想 CDROM (Virtual CDROM)」を選択します。
6. 「CD から起動するにはいずれかのキーを押します (Press any key to boot from CD)」というプロンプトが表示されたら、いずれかのキーをすばやく押します。
Windows のセットアッププロセスが開始します。
7. **Windows** のセットアップダイアログの下の方に次のプロンプトが表示されたら、すばやく **F6** を押します。
サードパーティー製の SCSI または RAID ドライバをインストールする必要がある場合は、**F6** を押してください。

注 - このプロンプトは約 5 秒間しか表示されないため、見落とすおそれがあります。このプロンプトが表示されている間に F6 を押さないと、追加のドライバを指定するダイアログが表示されず、インストールでエラーが発生します。このような場合は、インストールを実行しているサーバーを再起動し、[手順 3](#)に戻ってください。

F6 を押すと、セットアッププロセスが続行し次のダイアログが表示されます。このダイアログでは、追加の大容量記憶装置を指定できます。



```
Setup could not determine the type of one or more mass storage devices
installed in your system, or you have chosen to manually specify an adapte
Currently, Setup will load support for the following mass storage devices(
<none>

* To specify additional SCSI adapters, CD-ROM drives, or special
  disk controllers for use with Windows, including those for
  which you have a device support disk from a mass storage device
  manufacturer, press S.

* If you do not have any device support disks from a mass storage
  device manufacturer, or do not want to specify additional
  mass storage devices for use with Windows, press ENTER.

S=Specify Additional Device  ENTER=Continue  F3=Exit
```

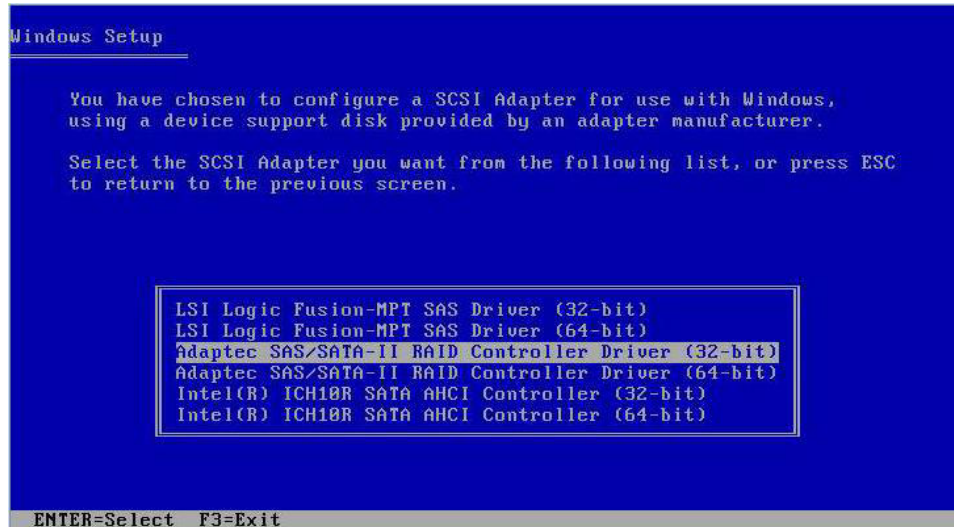
8. 選択した大容量記憶装置ドライバのインストール方法に応じて、次のように大容量記憶装置ドライバにアクセスできることを確認します。

たとえば、次のように入力します。

- フロッピーディスク (ローカル) の場合 - サーバーのフロッピードライブ A に大容量記憶装置ドライバのフロッピーディスクを入れます。
- フロッピーディスク (リモート) の場合 - Sun ILOM リモートコンソールシステムのフロッピードライブに大容量記憶装置ドライバのフロッピーディスクを入れます。
- フロッピーイメージの場合 - Sun ILOM リモートコンソールシステムからアクセスできるフロッピーイメージファイル (たとえば `intelsmilsi.img`) を使用します。

9. **s** を押して、追加のデバイスを指定します。

ダイアログに使用可能なドライバのリストが表示されます。



注 – 上記のダイアログは、インストールする大容量記憶装置コントローラドライバのタイプに応じて異なります。

10. 「アダプタの選択 (Select Adapter)」ダイアログで、インストールする大容量記憶装置コントローラドライバの適切なバージョン (Windows 32 ビットまたは 64 ビット) を選択し、Enter キーを押します。

たとえば、次のように入力します。

- **LSI ベースの統合 RAID コントローラを搭載したサーバーの場合:**
LSI Logic Fusion-MPT SAS ドライバ (32 ビットまたは 64 ビット)
- **Adaptec ベースの統合 RAID コントローラを搭載したサーバーの場合:**
Adaptec SAS/SATA-II RAID ドライバ (32 ビットまたは 64 ビット)
- **Intel ベースの統合ディスクコントローラを搭載したサーバーの場合:**
Intel(R) ICH10R SATA AHCI コントローラ (32 ビットまたは 64 ビット)

次のようなダイアログに、指定した大容量記憶装置用のサポートが読み込まれるというメッセージが表示されます。

```
Windows Setup
-----
Setup will load support for the following mass storage device(s):

  Adaptec SAS/SATA-II RAID Controller Driver (32-bit)

* To specify additional SCSI adapters, CD-ROM drives, or special
  disk controllers for use with Windows, including those for
  which you have a device support disk from a mass storage device
  manufacturer, press S.

* If you do not have any device support disks from a mass storage
  device manufacturer, or do not want to specify additional
  mass storage devices for use with Windows, press ENTER.

S=Specify Additional Device  ENTER=Continue  F3=Exit
```

11. Enter キーを押して先へ進みます。

Windows のセットアッププロセスが続行し、セットアップ通知のダイアログが表示されます。

```
Windows Server 2003, Enterprise Edition Setup
-----
Setup Notification:
You are about to install an evaluation version of Microsoft(R)
Windows(R) operating system which contains a time limited expiration
for evaluation purposes only.

  • To continue, press ENTER.
  • To quit Setup without installing Windows, press F3.

ENTER=Continue  F3=Quit
```

12. セットアップ通知のダイアログで、Enter キーを押して先へ進みます。
Windows セットアップの起動ダイアログが表示されます。

```
Windows Server 2003, Enterprise Edition Setup

Welcome to Setup.

This portion of the Setup program prepares Microsoft(R)
Windows(R) to run on your computer.

• To set up Windows now, press ENTER.
• To repair a Windows installation using
  Recovery Console, press R.
• To quit Setup without installing Windows, press F3.

ENTER=Continue  R=Repair  F3=Quit
```

13. セットアップの起動ダイアログで、Enter キーを押して続行します。
Windows ライセンス契約のダイアログが表示されます。
14. ライセンス契約に同意する場合は、F8 を押します。
サーバーの既存のパーティション、および未使用の領域が表示されます。

注 - サーバーの起動ディスクにすでにインストールされていると、パーティションに関するダイアログが表示されます。

```
Windows Server 2003, Enterprise Edition Setup

The following list shows the existing partitions and
unpartitioned space on this computer.

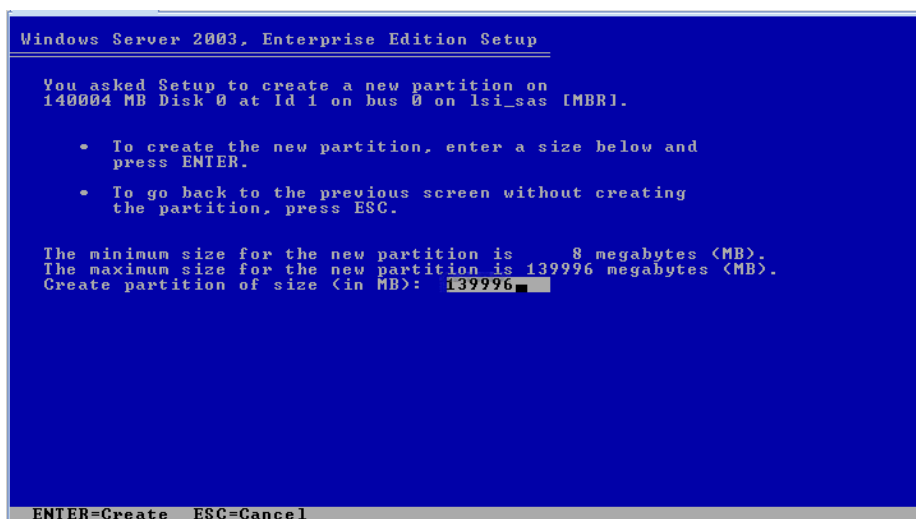
Use the UP and DOWN ARROW keys to select an item in the list.

• To set up Windows on the selected item, press ENTER.
• To create a partition in the unpartitioned space, press C.
• To delete the selected partition, press D.

140004 MB Disk 0 at Id 1 on bus 0 on lsi_sas [MBR]
C: Partition [NTFS] 139996 MB < 139841 MB free>
Unpartitioned space 8 MB

ENTER=Install  D=Delete Partition  F3=Quit
```

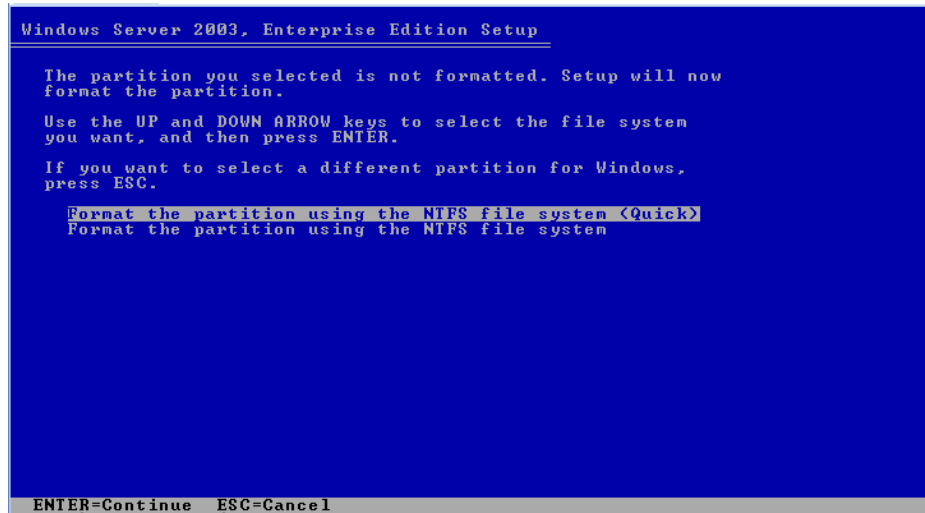
15. 既存のパーティションを削除するために、D を押します。
パーティションを削除することを確認するダイアログが表示されます。
16. Enter キーを押して先へ進みます。
警告メッセージを含む確認のダイアログが再度表示され、削除しようとしているパーティションが示されます。
17. L を押してパーティションを削除します。
パーティションが削除され、サーバーのディスクの未使用の領域がダイアログに表示されます。
18. 未使用の領域にパーティションを作成するために、C を押します。
新しいパーティションのサイズを指定するダイアログが表示されます。



19. デフォルトサイズを変更しないでパーティションを作成するか、または Back Space キーを使用して指定されているサイズを削除し、新しいサイズを入力してから Enter キーを押します。
Windows のインストールには、通常は推奨サイズの 40,000 Mバイトで十分です。このサイズであれば、ほかのメディアのインストール用に十分な領域をディスクに確保できます。
パーティションの確認画面が表示されます。

20. Enter キーを押してパーティションを受け入れます。

パーティションのフォーマットに関するダイアログが表示されます。



21. 上下矢印キーを使用して「クイック (Quick)」メニューオプションを選択し、Enter キーを押してパーティションをフォーマットします。

セットアッププロセスによりパーティションがフォーマットされ、Windows のインストールフォルダにファイルがコピーされます。このプロセスにはしばらく時間がかかることがあります。

22. 以下のメッセージのプロンプトが出されるまで、Windows Server 2003 の初期セットアップを完了するために画面上の指示に従います。

Remove disks or other media. (ディスクまたはほかのメディアを取り出してください。) Press any key to restart. (いずれかのキーを押して再起動してください)。

このメッセージが表示されると、インストールを完了するために、選択したドライブ取得方法に応じて、以下のいずれかのステップを完了する必要があります。

- フロッピーディスク (ローカル) – サーバーのフロッピードライブからフロッピーディスクを取り出します。
- フロッピーディスク (リモート) – Sun ILOM リモートコンソールシステムからフロッピーディスクを取り出します。
- フロッピーイメージ – Sun ILOM リモートコンソールの「Devices」メニューでフロッピーイメージの選択を解除します。

その後、いずれかのキーを押してシステムを再起動し、Windows Server 2003 のインストールを完了します。

23. 59 ページの「インストール後の作業」に進みます。

PXE ネットワーク環境経由での Windows Server 2003 のインストール

この節では、お客様が用意した Windows 2003 リモートインストールサービス (RIS) イメージを使用して、構築済みの PXE ベースのネットワークで Windows Server 2003 オペレーティングシステムソフトウェアをインストールするために必要な初期情報を説明します。

注 – 別の方法として、お客様が用意した Windows 展開サービス (Windows Deployment Service、WDS) イメージを使用して、構築済みの PXE ベースのネットワークで Windows 2003 オペレーティングシステムをインストールすることもできます。

この手順を完了した後、[59 ページの「インストール後の作業」](#)で説明するインストール後の作業を行う必要があります。

作業を開始する前に

RIS イメージからの Windows Server 2003 のインストールを実行する前に、次の要件を満たしておく必要があります。

- PXE を使用してネットワーク経由でインストールメディアを起動するために、次のことを行います。
 - インストールツリーをエクスポートするようにネットワーク (NFS、FTP、HTTP) サーバーを設定します。
 - PXE 起動に必要なファイルを TFTP サーバーで設定します。
 - PXE 構成から起動するように Sun サーバーの MAC ネットワークポートアドレスを設定します。
 - DHCP を設定します。
- RIS イメージを使用してインストールを実行するために、次のことを行います。
 - RIS インストールイメージを作成します。

Windows Server 2003 のドキュメントに記載されている RIS のインストール手順に従います。
 - 必要なシステムデバイスドライバを RIS インストールイメージに追加します。

手順については、[73 ページの付録 A 「WIM イメージまたは RIS イメージへの Sun Fire サーバードライバの組み込み」](#)を参照してください。
 - RIS 管理者パスワードを設定します。

▼ PXE 経由での Windows Server 2003 のインストール

1. PXE ネットワーク環境が適切に設定されていること、および Windows Server 2003 インストールメディアが PXE 起動に使用できる状態であることを確認します。

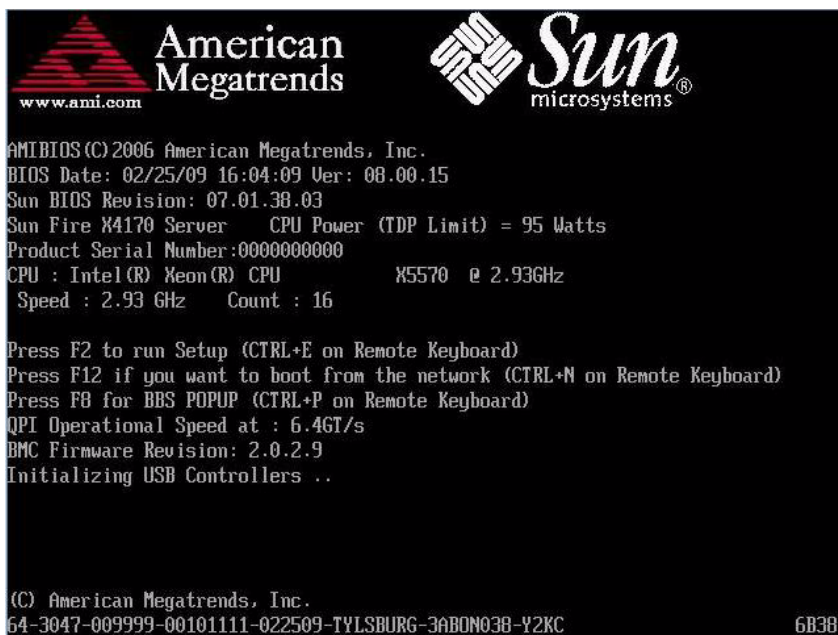
注 - RIS ネットワーク環境を適切に設定および展開する方法については、このインストールガイドでは説明しません。これらの詳細については、リモートインストールサービスの展開および使用方法に関する Microsoft のドキュメントを参照してください。

2. サーバーの電源を入れ直します。

たとえば、次のように入力します。

- **ILOM Web インタフェース**で、「Remote Control」-->「Remote Power Control」タブを選択し、「Host action」ドロップダウンリストボックスから「Power Cycle」を選択します。
- **ローカルサーバー**で、フロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押してサーバーの電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押して電源を入れます。
サーバーの電源の切断と投入については、『Sun Fire X4170, X4275, and X4275 Servers Service Manual』を参照してください。
- **ILOM CLI**で、`reset /SYS` と入力します。

BIOS 画面が表示されます。



```
AMTBIOS(C) 2006 American Megatrends, Inc.
BIOS Date: 02/25/09 16:04:09 Ver: 08.00.15
Sun BIOS Revision: 07.01.38.03
Sun Fire X4170 Server CPU Power (TDP Limit) = 95 Watts
Product Serial Number:0000000000
CPU : Intel(R) Xeon(R) CPU X5570 @ 2.93GHz
Speed : 2.93 GHz Count : 16

Press F2 to run Setup (CTRL+E on Remote Keyboard)
Press F12 if you want to boot from the network (CTRL+N on Remote Keyboard)
Press F8 for BBS POPUP (CTRL+P on Remote Keyboard)
QPI Operational Speed at : 6.4GT/s
BMC Firmware Revision: 2.0.2.9
Initializing USB Controllers ..

(C) American Megatrends, Inc.
64-3047-009999-00101111-022509-TYLSBURG-3AB0N03B-Y2KC 6B3B
```

注 - 次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。メッセージが短時間画面に表示される間、メッセージを注意深く観察します。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

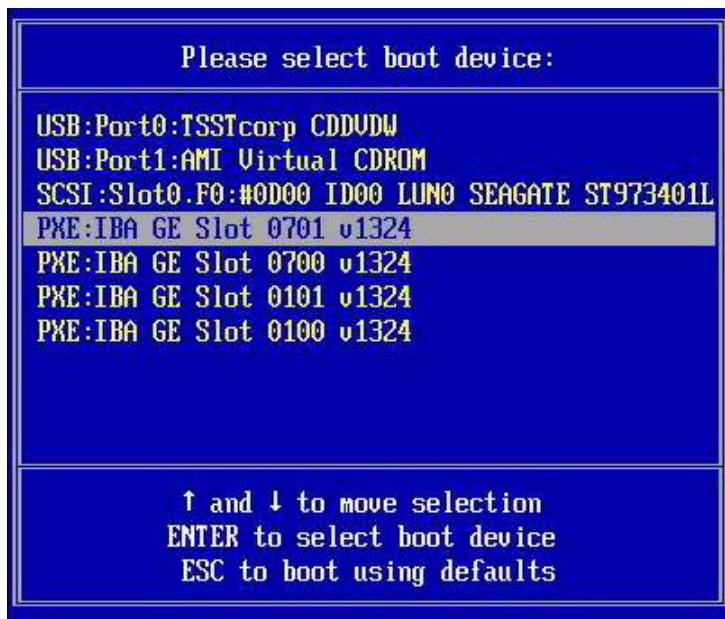
3. F8 を押して一時起動デバイスを指定します。

「起動デバイスを選択してください (Please Select Boot Device)」というメニューが表示されます。

4. 「起動デバイスを選択してください (Please Select Boot Device)」メニューで、適切な PXE インストール起動デバイスを選択し、Enter キーを押します。

PXE インストール起動デバイスは、ネットワークインストールサーバーと通信するように構成された物理ネットワークポートです。

注 - 次の起動デバイス選択ダイアログに表示されている起動デバイスオプションは、実際の画面に表示されるオプションとは異なる場合があります。



Boot Agent のダイアログが表示されます。

```
Intel(R) Boot Agent GE v1.2.31
Copyright (C) 1997-2005, Intel Corporation

CLIENT MAC ADDR: 00 00 20 B6 CE 88 GUID: 00020003 0004 0005 0006 000700080009
CLIENT IP: 192.168.1.102 MASK: 255.255.255.0 DHCP IP: 192.168.1.1

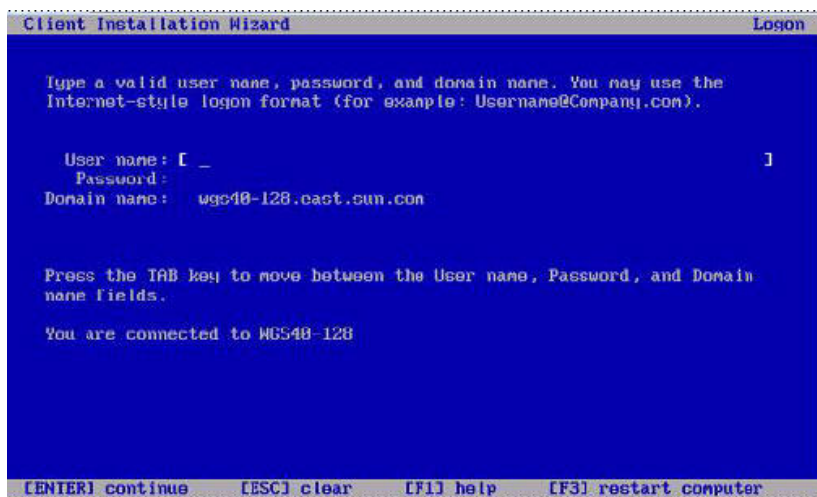
Press F12 for network service boot
```

5. Boot Agent ダイアログで、F12 を押してネットワークサービス起動を選択します。
クライアントインストールウィザードの開始画面が表示されます。



6. クライアントインストールウィザードの開始画面で、Enter キーを押して先へ進みます。

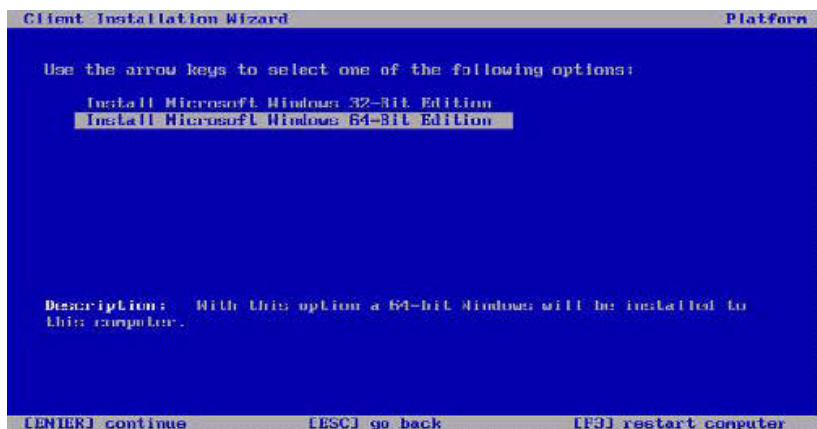
次のダイアログでは、ユーザー名、パスワード、およびドメイン名の入力を求められます。



7. ユーザー名とパスワードのダイアログで、使用するユーザー名およびパスワードを指定し、Enter キーを押します。

フィールドを移動するには Tab キーを使用します。

Windows Server 2003 バージョンのダイアログが表示されます。



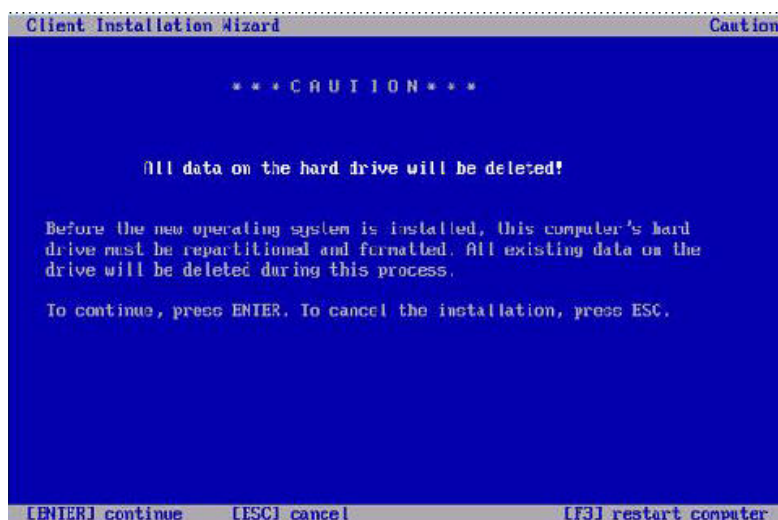
- Windows Server 2003 バージョンのダイアログで、インストールするバージョン (32 ビットまたは 64 ビット) を選択し、Enter キーを押します。

Windows Server 2003 オペレーティングシステム選択のダイアログが表示されます。

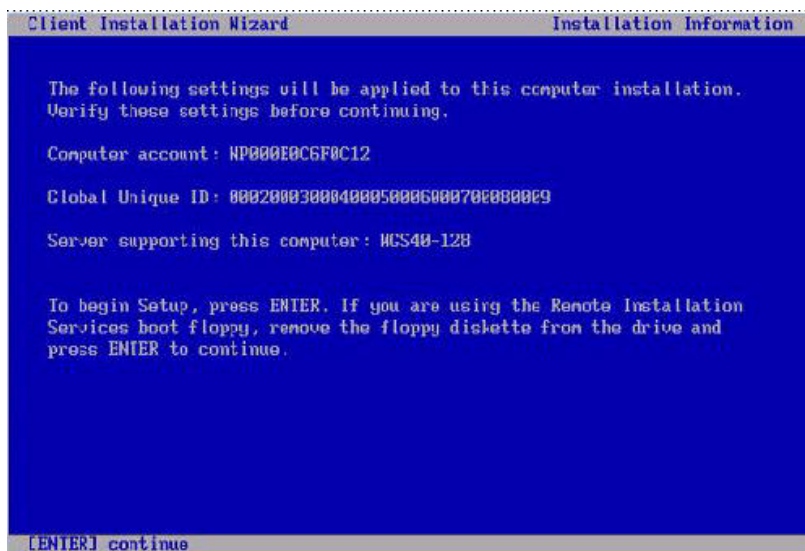
- OS 選択のダイアログで、インストールする OS オプションを選択し、Enter キーを押します。

注 – OS 選択のダイアログには、RIS サーバーからのインストールが可能な OS イメージの名前が表示されます。RIS サーバーの OS 選択のダイアログに表示されるオプションは、このダイアログの例に表示されているものとは異なる場合があります。

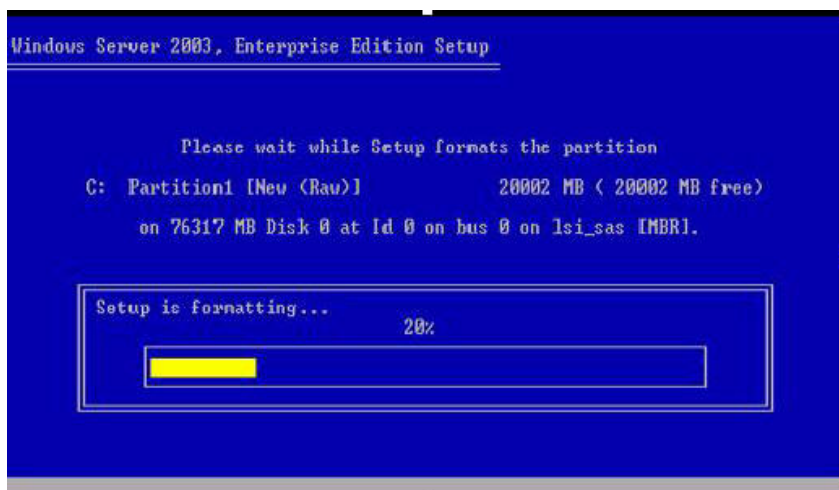
警告のダイアログが表示されます。



10. 警告のダイアログで、Enter キーを押して続行します。
インストール情報のダイアログが表示されます。



11. インストール情報のダイアログで、Enter キーを押して続行します。
管理者パスワードのダイアログが表示されます。



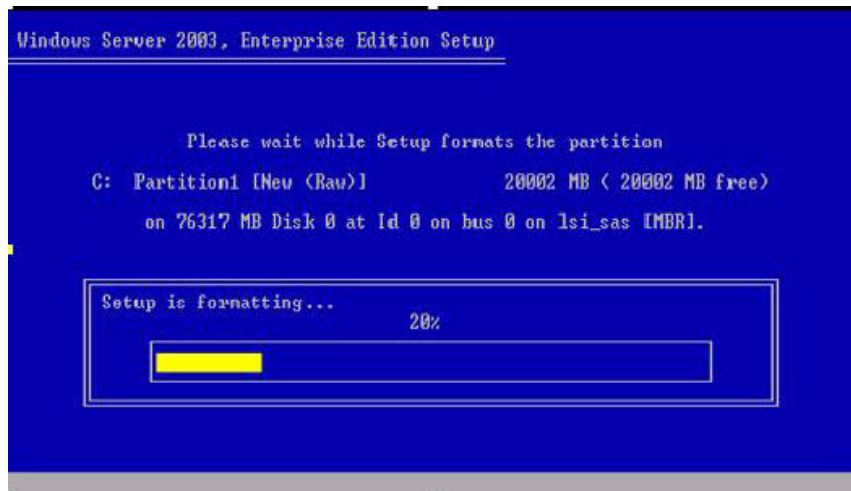
12. 管理者パスワードのダイアログで、OS 管理者のパスワードを指定して Enter キーを押します。

このパスワードは OS のインストール先に割り当てられます。

パスワードの確認を求められます。

13. 管理者パスワード確認のダイアログで、もう一度パスワードを入力し、Enter キーを押します。

Windows のセットアップが開始され、セットアップによりパーティションをフォーマットしているというメッセージが表示されます。



14. 59 ページの「インストール後の作業」に進みます。

第3章

Windows Server 2008 オペレーティングシステムのインストール

この章では、Windows Server 2008 オペレーティングシステム (Operating System、OS) のインストールについて説明します。

注 – ディスクに RAID セットを構築しようとしている場合、OS をインストールする前にハードウェア RAID を構築することをお勧めします。詳細は、『Sun™ Disk Management Overview, For x64 Sun Fire and Sun Blade Series Servers』(820-6350) を参照してください。

この章では、次の項目について説明します。

- 46 ページの「Windows Server 2008 をインストールする際の作業マップ」
- 47 ページの「ローカルまたはリモートのメディアを使用した Windows Server 2008 のインストール」
- 54 ページの「PXE ネットワーク経由での Windows Server 2008 のインストール」

Windows Server 2008 をインストールする際の作業マップ

表 3-1 を使用して、一連の作業として定義されているインストール手順を確認してください。この表には、必要な作業とその説明、および作業の実行手順の参照先が記載されています。

表 3-1 Windows Server 2008 をインストールする際の作業マップ

手順	作業	説明	関連項目
1	インストール要件を確認します	オペレーティングシステムをサーバーにインストールするためのすべての適用条件を満たしていることを確認します。	<ul style="list-style-type: none">• 3 ページの表 1-2 「OS のインストールの前提条件」
2	インストール方法を選択します	使用しているインフラストラクチャーの要件を満たすインストール方法を検討して選択します。	<ul style="list-style-type: none">• 5 ページの「インストール方法」
3	BIOS の設定を出荷時のデフォルト設定にします	オペレーティングシステムのインストールを行う前に、BIOS の設定が出荷時のデフォルト設定になっていることを確認します。	<ul style="list-style-type: none">• 10 ページの「新規インストールの BIOS 設定の確認」
4	Windows のインストールメディアを用意します	Windows OS には、CD/DVD メディア、および Windows OS をインストールする際に必要となるドキュメントが付属しています。	<ul style="list-style-type: none">• Windows 2008 のメディアは次の場所でダウンロードまたは注文できます。 http://www.microsoft.com
5	Windows 2008 OS のインストールを実行します	この章の手順に従って Windows 2008 オペレーティングシステムをインストールします。	<ul style="list-style-type: none">• 47 ページの「ローカルまたはリモートのメディアを使用した Windows Server 2008 のインストール」• 54 ページの「PXE ネットワーク経由での Windows Server 2008 のインストール」
6	必要に応じて、ドライバや追加ソフトウェアをインストールし、インストール後の処理を行います	必要な場合は、更新済みのサーバー固有ドライバやサーバーの追加ソフトウェアをインストールします。	<ul style="list-style-type: none">• 59 ページの「インストール後の作業」
9	必要に応じて、Wake On LAN 機能を有効にします	必要な場合は、このサーバーの Wake On LAN 機能を有効にします。	<ul style="list-style-type: none">• 59 ページの「インストール後の作業」

注 – Microsoft Windows オペレーティングシステムの全インストールプロセスについては、このセクションでは説明していません。この節では、Windows Server 2008 メディアの起動、起動時のドライバのインストール (必要な場合)、およびドライブのパーティション分割に関する手順について説明します。詳細は、次のサイトにある Microsoft Windows 2008 の製品ドキュメントを参照してください。
<http://www.microsoft.com/windowsserver2008/en/us/product-documentation.aspx>

ローカルまたはリモートのメディアを使用した Windows Server 2008 のインストール

次の手順では、ローカルまたはリモートのメディアから Windows Server 2008 オペレーティングシステムを起動する方法について説明します。ここでは、次のいずれかのソースから Windows のインストールメディアを起動するものとします。

- Windows 2008 CD または DVD (内蔵または外付けの CD/DVD)
- Windows 2008 ISO イメージ (ネットワークリポジトリ)

注 – PXE 環境からインストールメディアを起動する場合については、[54 ページの「PXE ネットワーク経由での Windows Server 2008 のインストール」](#)を参照してください。

作業を開始する前に

インストールを実行する前に、次の要件を満たしていることが必要です。

- オペレーティングシステムのインストールに関する前提条件をすべて満たしている。これらの前提条件については、[3 ページの表 1-2「OS のインストールの前提条件」](#)を参照してください。
- インストールの実行前に、インストール方法 (コンソール、起動メディア、インストール先など) を検討し、すでに決定している。これらのセットアップ要件については、[5 ページの「インストール方法」](#)を参照してください。

この手順を完了した後、[59 ページの「インストール後の作業」](#)で説明するインストール後の作業を行う必要があります。

▼ ローカルまたはリモートのメディアを使用した Windows Server 2008 のインストール

1. インストールメディアが起動可能な状態であることを確認します。

注 – Sun Fire X4275 サーバーの場合は、フロントパネルに CD/DVD-ROM ドライブも USB コネクタも付いていないので、Sun ILOM リモートコンソールを使用してリモートストレージデバイスから起動メディアをリダイレクトします。詳細は、7 ページの表 1-4 「OS のインストールを実行するための起動メディアオプション」に記載されているリモート起動メディアに関する説明を参照してください。

たとえば、次のように入力します。

- **Distribution CD/DVD の場合は**、Windows 2008 Distribution メディア (番号 1 が付いた CD または 1 枚の DVD) をローカルまたはリモートの USB CD/DVD-ROM ドライブに挿入します。
- **ISO イメージの場合は**、ISO イメージを入手済みで、かつ ILOM リモートコンソールアプリケーションが 1 番目の ISO イメージの場所を認識していることを確認します。

インストールメディアの設定方法については、7 ページの表 1-4 「OS のインストールを実行するための起動メディアオプション」を参照してください。

2. サーバーの電源を入れ直します。

たとえば、次のように入力します。

- **ILOM Web インタフェースで**、「Remote Control」--> 「Remote Power Control」タブを選択し、「Host action」ドロップダウンリストボックスから「Power Cycle」オプションを選択します。
- **ローカルサーバーで**、フロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押してサーバーの電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押して電源を入れます。
サーバーの電源の切断と投入については、『Sun Fire X4170, X4275, and X4275 Servers Service Manual』を参照してください。

- ILOM CLI で、`reset /SYS` と入力します。

BIOS 画面が表示されます。

```
AMIBIOS (C) 2006 American Megatrends, Inc.
BIOS Date: 02/25/09 16:04:09 Ver: 08.00.15
Sun BIOS Revision: 07.01.38.03
Sun Fire X4170 Server CPU Power (TDP Limit) = 95 Watts
Product Serial Number:0000000000
CPU : Intel (R) Xeon (R) CPU X5570 @ 2.93GHz
Speed : 2.93 GHz Count : 16

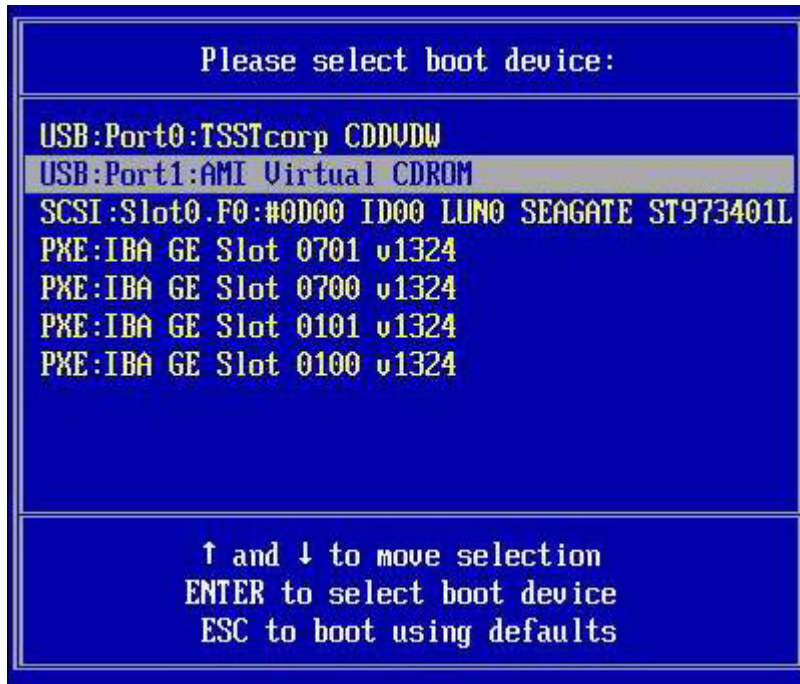
Press F2 to run Setup (CTRL+E on Remote Keyboard)
Press F12 if you want to boot from the network (CTRL+N on Remote Keyboard)
Press F8 for BBS POPUP (CTRL+P on Remote Keyboard)
QPI Operational Speed at : 6.4GT/s
BMC Firmware Revision: 2.0.2.9
Initializing USB Controllers ..

(C) American Megatrends, Inc.
64-3047-009999-00101111-022509-TYLSBURG-3AB0N03B-Y2KC 6B3B
```

3. BIOS 画面で、F8 を押します。

起動デバイスのダイアログが表示されます。

注 - 実際のインストール時に表示されるダイアログは、サーバーに取り付けられているディスクコントローラのタイプによって異なる場合があります。

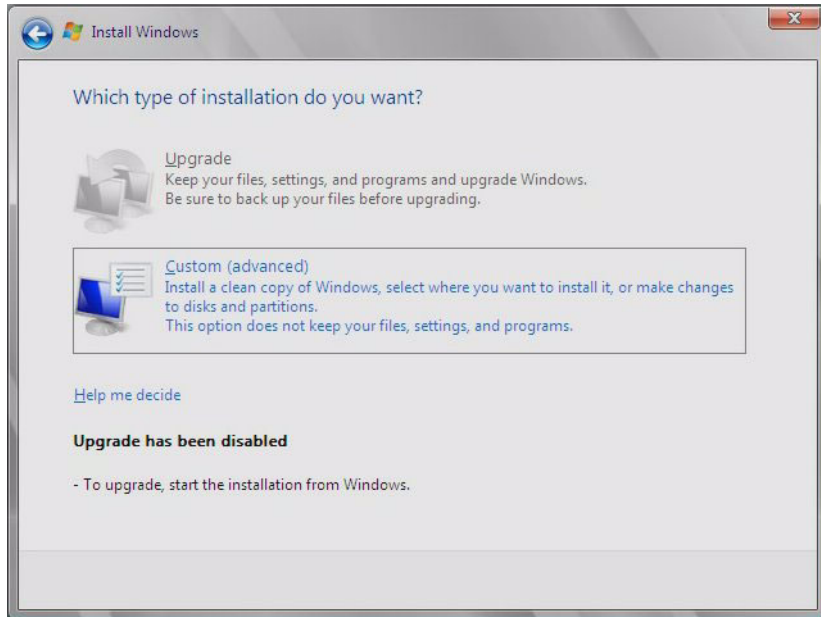


4. 「起動デバイス (Boot Device)」ダイアログで、使用対象として選択した Windows メディアインストール方法に基づいてメニュー項目を選択し、Enter キーを押します。

たとえば、次のように入力します。

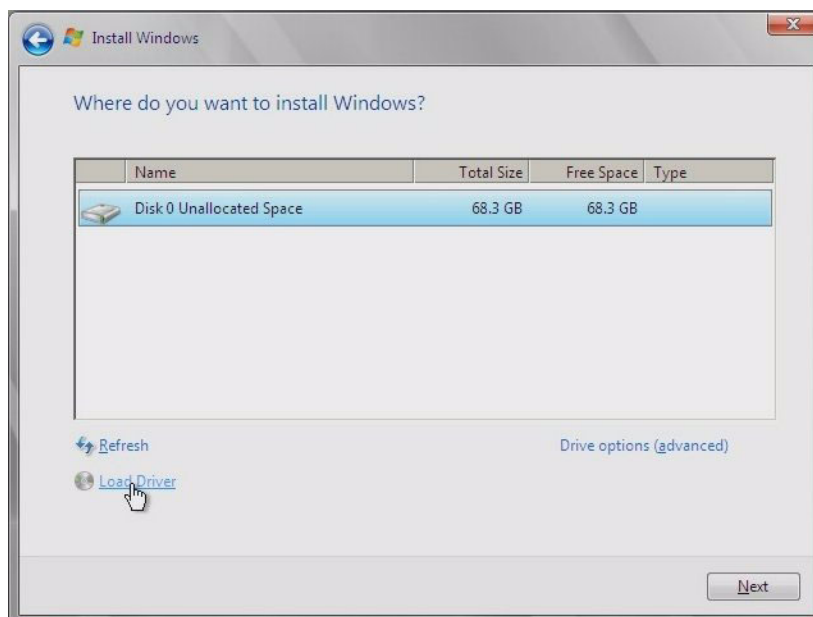
- Windows のローカルデリバリを選択した場合は、「CD/DVDW」を選択します。
- Sun ILOM リモートコンソールを使用したインストールを選択した場合は、「仮想 CDROM (Virtual CDROM)」を選択します。

5. 「CD から起動するにはいずれかのキーを押します (Press any key to boot from CD)」というプロンプトが表示されたら、いずれかのキーを押します。Windows インストールウィザードが起動します。
- 「インストールの種類 (Installation Type)」ダイアログが表示されるまで Windows インストールウィザードを進めます。



6. 「インストールの種類 (Installation Type)」ダイアログで、「カスタム (詳細)」をクリックします。

「Windows のインストール場所を選択してください (Where Do You Want to Install Windows?)」ダイアログが表示されます。

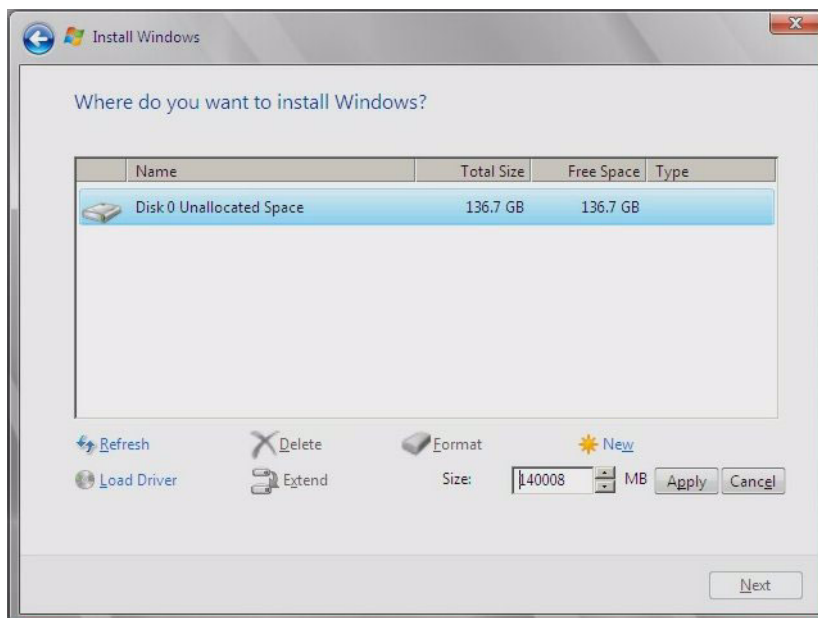


7. 「Windows のインストール場所を選択してください (Where Do You Want to Install Windows?)」ダイアログで、次のいずれかの手順を実行します。
- Windows デフォルトのパーティション情報を上書きしない場合は、「次へ (Next)」をクリックして手順 9 に進みます。
 - Windows デフォルトのパーティション情報を上書きする場合は、「ドライブオプション (詳細) (Driver options (advanced))」をクリックして手順 8 に進みます。



注意 – 既存のパーティションをフォーマットしたりパーティションを作成しなおしたりすると、そのパーティションにあるすべてのデータが消去されます。

「Windows のインストール場所を選択してください (Where do you want to Install Windows?)」ダイアログが表示されます。



8. 「Windows のインストール場所を選択してください (Where do you want to Install Windows?)」ダイアログで、次の手順を実行します。
 - a. 既存のパーティションを削除するために「削除 (Delete)」をクリックします。確認画面が表示されます。
 - b. 「OK」をクリックしてパーティションの削除を確認します。
 - c. 「新規 (New)」をクリックして新しいパーティションを作成します。
 - d. 必要に応じてパーティションサイズの設定を変更し、「適用 (Apply)」をクリックします。
パーティションが作成されます。
 - e. 「次へ (Next)」をクリックして次のステップに進みます。
Windows のインストールが開始されます。
インストールプロセス中、サーバーは数回再起動します。このプロセスには数分かかることがあります。

- Windows のインストールが完了すると、Windows が起動し、ユーザーパスワードの変更を求めるメッセージが表示されます。



- ユーザーパスワードのダイアログで「OK」をクリックし、初期のユーザーログインアカウントを設定します。

注 – Windows Server 2008 では、ユーザーアカウントに対し、より強力なパスワード方式が適用されます。パスワードの基準として、長さ、複雑さ、および履歴に関する制限が含まれています。詳細は、アカウント作成ページにあるアクセシビリティのリンクをクリックしてください。

初期のユーザーアカウントが作成された後、Windows Server 2008 のデスクトップ画面が表示されます。

- [59 ページの「インストール後の作業」](#)に進みます。

PXE ネットワーク経由での Windows Server 2008 のインストール

この節では、お客様が用意した Windows 展開サービス (Windows Deployment Service、WDS) イメージを使用して、構築済みの PXE ベースのネットワークで Windows Server 2008 オペレーティングシステムをインストールするために必要な初期情報を説明します。

この節の内容は次のとおりです。

- [55 ページの「作業を開始する前に」](#)
- [56 ページの「PXE 経由での Windows Server 2008 のインストール」](#)

この節で説明する手順は、Windows 展開サービス (Windows Deployment Service, WDS) イメージを使用してネットワーク経由で Windows 2008 をインストールするための最初の手順です。具体的には、WDS インストールサーバーと通信するサーバー PXE ネットワークインタフェースカードを選択する手順について説明します。WDS イメージを使用して Windows Server 2008 オペレーティングシステムをインストールする方法については、Windows 展開サービスに関する Microsoft のドキュメントを参照してください。

この手順を完了した後、[59 ページの「インストール後の作業」](#)で説明するインストール後の作業を行う必要があります。

作業を開始する前に

- PXE を使用してネットワーク経由でインストールメディアを起動するために、次のことを行います。
 - インストールツリーをエクスポートするようにネットワーク (NFS、FTP、HTTP) サーバーを設定します。
 - PXE 起動に必要なファイルを TFTP サーバーで設定します。
 - PXE 構成から起動するように Sun サーバーの MAC ネットワークポートアドレスを設定します。
 - DHCP を設定します。
- WIM イメージを使用してインストールを実行するために、次のことを行います。
 - WIM インストールイメージを作成します。

Windows Server 2008 のドキュメントに記載されている WIM のインストール手順に従います。
 - 必要なシステムデバイスドライバを WIM インストールイメージに追加します。

手順については、[73 ページの付録 A 「WIM イメージまたは RIS イメージへの Sun Fire サーバードライバの組み込み」](#)を参照してください。
 - WIM 管理者パスワードを設定します。

▼ PXE 経由での Windows Server 2008 のインストール

1. サーバーの電源を入れ直します。

たとえば、次のように入力します。

- ILOM Web インタフェースで、「Remote Control」-->「Remote Power Control」タブを選択し、「Host action」ドロップダウンリストボックスから「Power Cycle」を選択します。
- ローカルサーバーで、フロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押してサーバーの電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押して電源を入れます。
サーバーの電源の切断と投入については、『Sun Fire X4170, X4275, and X4275 Servers Service Manual』を参照してください。
- ILOM CLI で、`reset /sys` と入力します。

BIOS 画面が表示されます。

```
AMIBIOS (C) 2006 American Megatrends, Inc.
BIOS Date: 02/25/09 16:04:09 Ver: 08.00.15
Sun BIOS Revision: 07.01.38.03
Sun Fire X4170 Server CPU Power (TDP Limit) = 95 Watts
Product Serial Number: 0000000000
CPU : Intel(R) Xeon(R) CPU X5570 @ 2.93GHz
Speed : 2.93 GHz Count : 16

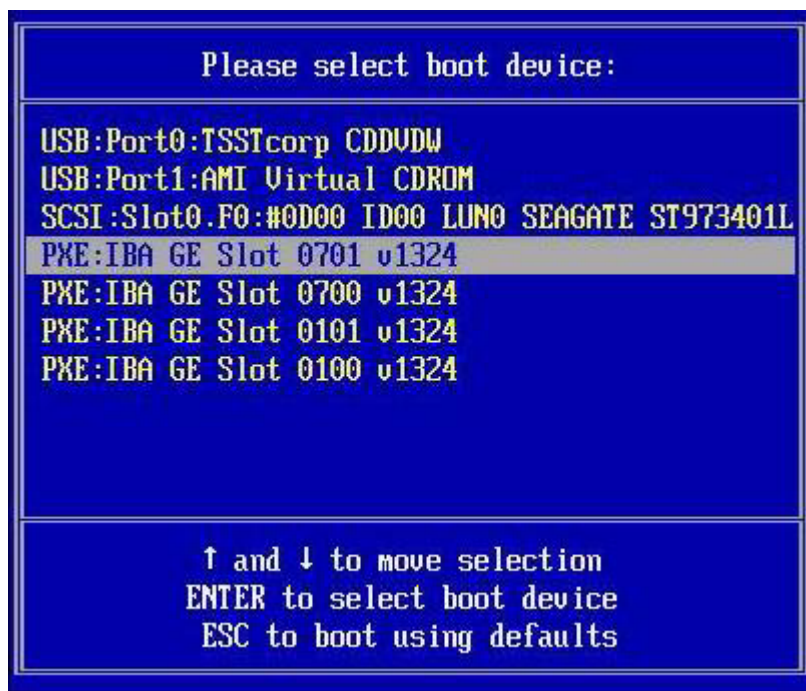
Press F2 to run Setup (CTRL+E on Remote Keyboard)
Press F12 if you want to boot from the network (CTRL+N on Remote Keyboard)
Press F8 for BBS POPUP (CTRL+P on Remote Keyboard)
QPI Operational Speed at : 6.4GT/s
BMC Firmware Revision: 2.0.2.9
Initializing USB Controllers ..

(C) American Megatrends, Inc.
64-3047-009999-00101111-022509-TYLSBURG-3AB0N03B-Y2KC 6B38
```

注 - 次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。メッセージが短時間画面に表示される間、メッセージを注意深く観察します。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

2. F8 を押して一時起動デバイスを指定します。

「起動デバイスを選択してください (Please Select Boot Device)」というメニューが表示されます。



3. 「起動デバイスを選択してください (Please Select Boot Device)」メニューで、適切な PXE インストール起動デバイスを選択し、Enter キーを押します。
PXE インストール起動デバイスは、ネットワークインストールサーバーと通信するように構成された物理ネットワークポートです。
Boot Agent のダイアログが表示されます。

```
Intel(R) Boot Agent GE v1.3.24
Copyright (C) 1997-2008, Intel Corporation

Intel(R) Boot Agent PXE Base Code (PXE-2.1 build 086)
Copyright (C) 1997-2007, Intel Corporation

CLIENT MAC ADDR: 00 14 4F CA B2 0F  GUID: 080020FF FFFF FFFF FFFF 00144FCAB210
CLIENT IP: 172.20.103.148  MASK: 255.255.255.0  DHCP IP: 172.20.103.254

Downloaded WDSNBP...

Architecture: x64
Contacting Server: 172.20.103.99.
TFTP Download: boot\x64\pxeboot.com
```

4. Boot Agent ダイアログで、F12 を押してネットワークサービス起動を選択します。
5. 引き続き通常の Windows Server 2008 WDS ネットワークインストールを実行します。詳細は、Microsoft の Windows 展開サービスに関する製品ドキュメントを参照してください。
6. [59 ページの「インストール後の作業」](#)に進みます。

第4章

インストール後の作業

Windows 2003 または Windows 2008 のインストールを完了してオペレーティングシステムを再起動した後で、次に示すインストール後の作業を確認し、必要に応じてシステムに該当する作業を実行するようにしてください。

- [59 ページの「サーバー固有ドライバのダウンロード」](#)
- [61 ページの「サーバー固有のデバイスドライバのインストール」](#)
- [67 ページの「追加ソフトウェアのインストール」](#)
- [70 ページの「Windows Server 2003 R2 SP2 用の Microsoft IPMI System Management ドライバの設定」](#)
- [72 ページの「Wake On LAN オプションの有効化」](#)
- [72 ページの「TPM オプションの設定」](#)

サーバー固有ドライバのダウンロード

この節では、Windows Server のインストールに必要なサーバー固有のドライバパッケージをダウンロードする方法を説明します。

注 – Tools and Drivers CD/DVD が手元にあり、これを使用する場合は、この節を飛ばして [61 ページの「サーバー固有のデバイスドライバのインストール」](#) に進むことができます。ただし、Tools and Drivers CD/DVD の最新バージョンは、[60 ページの「サーバー固有ドライバのダウンロード」](#) に記載されている Sun ダウンロードサイトで、ダウンロード可能なイメージとして入手できます。

▼ サーバー固有ドライバのダウンロード

1. ご使用のサーバーのドライバダウンロードサイトに移動します。
 - X4170 サーバーの場合:
<http://www.sun.com/servers/x64/x4170/downloads.jsp>
 - X4270 サーバーの場合:
<http://www.sun.com/servers/x64/x4270/downloads.jsp>
 - X4275 サーバーの場合:
<http://www.sun.com/servers/x64/x4275/downloads.jsp>
2. 以下のいずれかのダウンロードオプションを選択します。
 - メディアを使用してサーバー固有のドライバをインストールする場合は、Windows.zip をハードドライブの場所またはインストール時にアクセス可能なメディアにダウンロードします。Windows.zip に含まれている次のサブパッケージを展開します。
 - FloppyPack_x_x_x.zip (Intel SATA ドライバ、LSI SAS/SATA RAID ドライバ、Sun StorageTek SAS/SATA RAID ドライバ、QLogic SAN ドライバ、および Emulex SAN ドライバが含まれています)。このファイルを使用して、Windows Server 2003 のインストール用のドライバメディアを作成します。
 - InstallPack_x_x_x.exe (Windows Server のインストール後にサーバー固有のすべてのデバイスドライバをインストールするためのプログラム)。このファイルを使用して、すべてのサーバー固有ドライバをインストールします。
 - DriverPack_x_x_x.zip (上級者向けの Windows Server のサーバー固有のドライバアーカイブ (英語版))。Sun のサーバードライバをリモートインストールサービス (Remote Installation Service、RIS) イメージに組み込む場合に、このファイルをダウンロードします。
 - OptPack_x_x_x.zip (上級者向けの追加ソフトウェアアーカイブ)。追加ソフトウェアを PXE インストールに組み込む場合には、このファイルをダウンロードします。
 - PXE サーバーを使用してサーバー固有のドライバをインストールする場合 (上級者向けインストール) は、DriverPack_x_x_x.zip ファイルの内容を PXE サーバー上で展開します。

注 - _x_x_x の数字は、パッケージのバージョンを表します
(例: FloppyPack_1_1_4.zip)。

3. 61 ページの「サーバー固有のデバイスドライバのインストール」に進みます。

サーバー固有のデバイスドライバのインストール

Sun は、Sun サーバー固有のデバイスドライバおよび追加ソフトウェアをインストールするウィザードを提供しています。サーバー固有のデバイスドライバは、ハードウェアの設置を完了するときにサーバーに追加したオプションのデバイス、または将来追加する可能性のあるデバイスをサポートするために提供されています。

Sun サーバーインストールパッケージウィザードは、次のいずれかの方法を使用して起動できます。

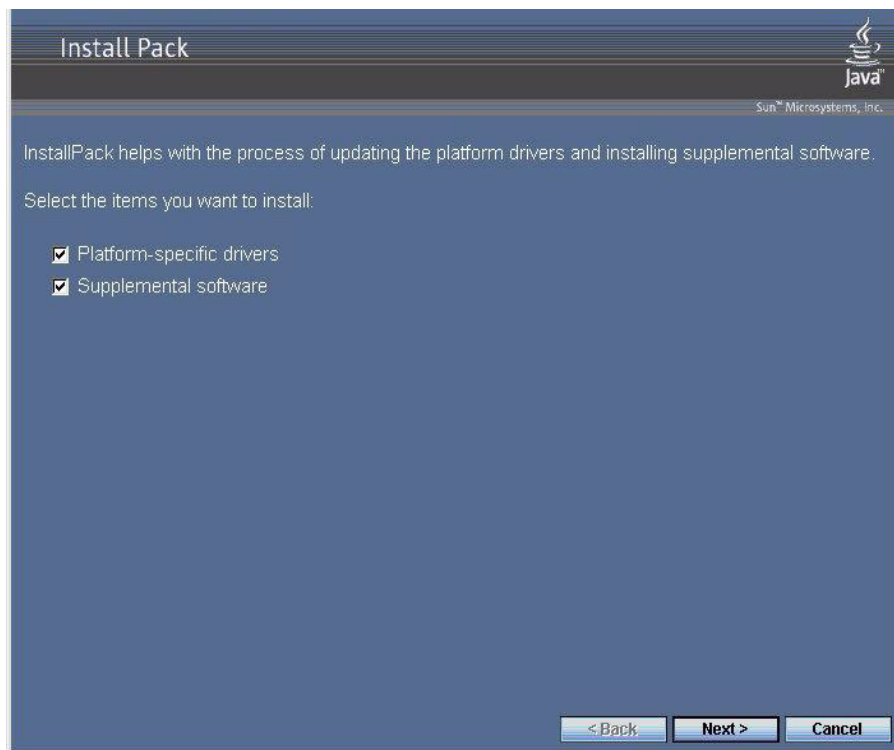
- サーバーの Tools and Drivers CD/DVD のメインメニューから、または
- InstallPack_x_x_x.exe 実行可能ファイルから

注 – 最近ダウンロードした InstallPack_x_x_x.exe を使用してドライバを更新することにより、サーバー固有ドライバを最新バージョンに更新できます。

▼ サーバー固有のデバイスドライバのインストール

1. 次のいずれかの方法を使用して、Sun インストールパッケージソフトウェアを起動します。
 - サーバーの CD/DVD ドライブに、Tools and Drivers CD/DVD を挿入します。
 - CD は自動的に起動します。メインメニューで、「ドライバと追加ソフトウェアのインストール (Install Drivers and Supplemental Software)」を選択します。
 - InstallPack_x_x_x.exe ファイルを Sun ダウンロードサイトからダウンロードした場合 (59 ページの「サーバー固有ドライバのダウンロード」の説明のように)、サーバーのローカルドライブに必ずコピーしてから、InstallPack_x_x_x.exe アプリケーションを実行します。

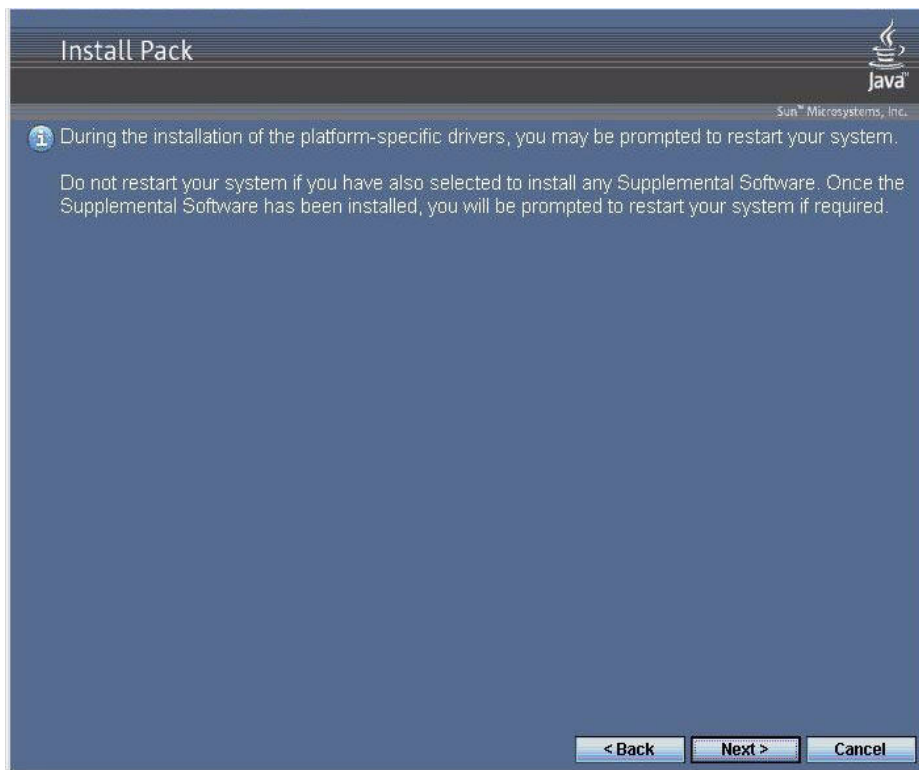
「Sun サーバーインストールパック (Sun Server Install Pack)」ダイアログボックスが表示されます。



2. 「Next (次へ)」をクリックして、デフォルト設定を受け入れます。

最新バージョンのドライバを確実にインストールするために、「platform-specific drivers (プラットフォーム固有ドライバ)」を常に受け入れる必要があることに注意してください。

インストールパックの注意ダイアログボックスが表示されます。



3. 重要な注意点を確認し、「Next (次へ)」をクリックします。
Sun Server インストールウィザードの開始画面が表示されます。



4. 「Next (次へ)」をクリックします。

「エンドユーザー使用許諾契約書 (End User License Agreement)」ページが表示されます。



5. 「この契約書を承諾 (I accept this agreement)」を選択してから、「Next (次へ)」をクリックします。

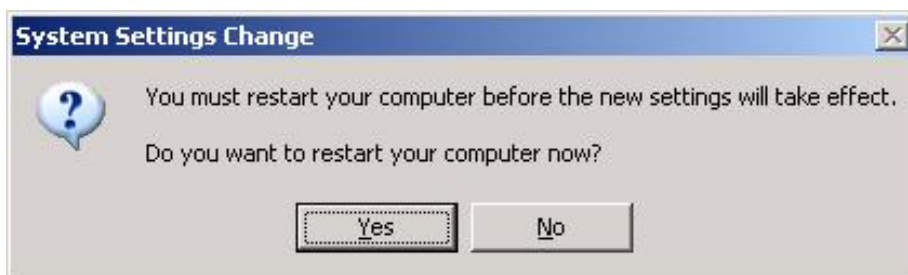
プラットフォーム固有ドライバがインストールされます。

次の画面の緑色のチェックマークは、各ドライバが正常にインストールされたことを表しています。



6. 「完了」をクリックします。

「システム設定の変更 (System Settings Change)」ダイアログボックスが表示されます。



注 - 追加ソフトウェアのインストールを行う場合 (強く推奨)、この時点ではシステムを再起動しないでください。追加ソフトウェアのインストール後に、システムを再起動するように指示するメッセージが表示されます。

7. 手順 2 でデフォルト設定を受け入れた場合は、「いいえ (No)」をクリックして 67 ページの「追加ソフトウェアのインストール」に進みます。

追加ソフトウェアをインストールしない場合は、「はい (Yes)」をクリックしてコンピュータを再起動します。

追加ソフトウェアのインストール

表 4-1 に、サーバーに適用可能なオプションの追加ソフトウェアコンポーネントを示します。

追加ソフトウェアインストールウィザードの実行中、通常 (Typical) を選択すると、表 4-1 に記載されているすべての追加ソフトウェアをシステムにインストールできます。カスタム (Custom) を選択すると、表 4-1 に記載されている追加ソフトウェアを個別に選択してインストールできます。追加ソフトウェアのインストール手順については、69 ページの「追加ソフトウェアのインストール」を参照してください。

表 4-1 インストールパックのオプションの追加ソフトウェア

使用可能な追加ソフトウェアコンポーネント	Windows 2003 に使用 可能	Windows 2008 に使用 可能	LSI 統合 RAID コントローラ搭 載のサーバー	Adaptec 統合 RAID コントロー ラ搭載のサーバー	Intel 統合ディス クコントローラ 搭載のサーバー
LSI MegaRAID Storage Manager SAS 内蔵 RAID ホストバスアダプタで RAID を設定、監視、および維持管理できます。MSM の使用方法については、 http://docs.sun.com で入手できる、使用中のサーバー用の『Sun LSI 106x RAID User's Guide』を参照してください。	はい	はい	Typical (通常)	適用不可	適用不可
Sun STK RAID Manager Adaptec SG-XPCIESAS-R-IN 統合 RAID コントローラで RAID を設定、管理、および監視できます。Sun STK RAID Manager については、次の Sun ドキュメント Web サイトを参照してください。 http://docs.sun.com/app/docs/coll/dsk-cntrl	はい	はい	適用不可	Typical (通常)	適用不可

表 4-1 インストールパックのオプションの追加ソフトウェア (続き)

使用可能な追加ソフトウェアコンポーネント	Windows 2003 に使用 可能	Windows 2008 に使用 可能	LSI 統合 RAID コントローラ搭 載のサーバー	Adaptec 統合 RAID コントロー ラ搭載のサーバー	Intel 統合ディス クコントローラ 搭載のサーバー
IPMITool コマンド行ユーティリティ このユーティリティは、BMC (別名サービスプロセッサ) を使用して、センサーデータリポジトリ (Sensor Data Repository、SDR) を読み取り、センサーの値、システムイベントログ (System Event Log、SEL)、現場交換可能ユニット (Field Replaceable Unit、FRU) インベントリ情報を表示し、LAN 設定パラメーターを取得および設定し、シャーシの電源制御処理を実行します。	はい	はい	Typical (通常)	Typical (通常)	Typical (通常)
IPMI System Management ドライバ* (Sun Microsystems) - センサーデータリポジトリ (Sensor Data Repository、SDR) を読み取り、センサーの値、システムイベントログ (System Event Log、SEL)、現場交換可能ユニット (Field Replaceable Unit、FRU) インベントリ情報を表示する Windows ドライバ。 このドライバは、インストールパックメディアからのみ入手可能です。 注 - この追加ソフトウェアは、Windows Server 2003 SP2 のみを対象としています。Windows 2003 R2 SP2 の場合は、Microsoft インボックスドライバを使用します。ドライバの設定手順については、70 ページの「 Windows Server 2003 R2 SP2 用の Microsoft IPMI System Management ドライバの設定 」を参照してください。	はい (R2 を除く)		Typical (通常)	Typical (通常)	Typical (通常)
Intel NIC Teaming サーバーの複数のネットワークインタフェースをまとめて仮想インタフェースと呼ばれる 1 つの物理ポートにすることができます。	はい	Typical (通常)	Typical (通常)	Typical (通常)	Typical (通常)

▼ 追加ソフトウェアのインストール

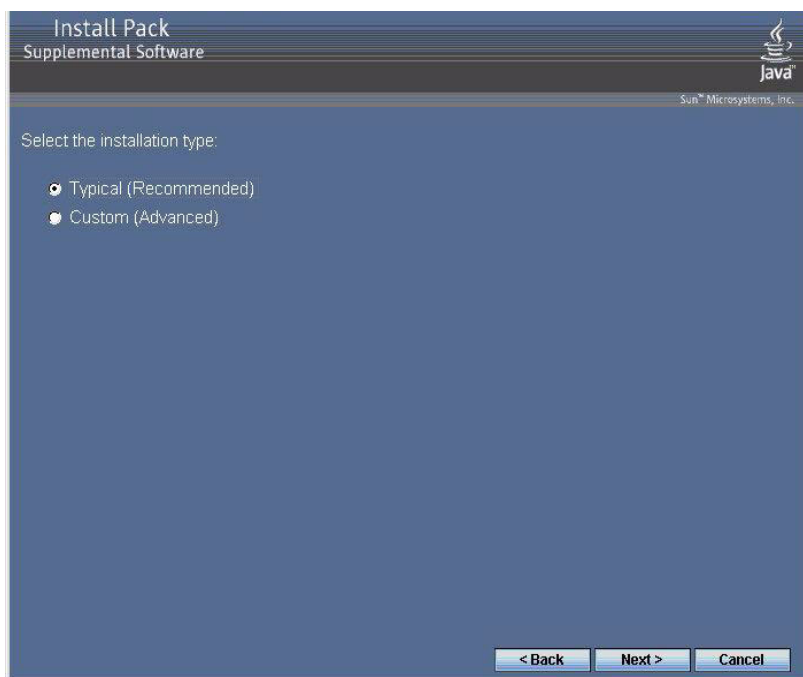
注 – 追加ソフトウェアをすでにインストールしている場合には、インストールを再度実行しても、追加ソフトウェアが必ずしも再インストールされるわけではありません。削除される場合があります。追加ソフトウェアのインストール中にはダイアログボックスの内容を注意深く確認して、結果が期待どおりになるようにしてください。

1. 次のいずれかの手順を実行します。

- 61 ページの「サーバー固有のデバイスドライバのインストール」の手順を実行するときに「追加ソフトウェア (Supplemental Software)」を選択しなかった場合は、この手順に戻って再度実行します。ただしその際は、**手順 2** でデフォルト設定のままにして (デフォルトでは追加ソフトウェアをインストールします)、**手順 7** で「いいえ (No)」を選択してください。

「追加ソフトウェア (Supplemental Software)」ダイアログボックスが表示されます。次のステップに進みます。

- 61 ページの「サーバー固有のデバイスドライバのインストール」の手順 2 の Sun サーバーインストールパッケージのダイアログボックスで「追加ソフトウェア (Supplemental Software)」を選択し、**手順 7** でいいえ (No) を選択した場合は、「追加ソフトウェア (Supplemental Software)」ダイアログボックスが表示されます。次のステップに進みます。



2. 「通常 (Typical)」設定を受け入れる場合は「次へ (Next)」をクリックし、インストールするオプションを選択する場合は「カスタム (Custom)」を選択します (表 4-1 の説明を参照)。

コンポーネントインストールウィザードの指示に従って、選択した追加ソフトウェアコンポーネントを順にインストールします。

3. 追加ソフトウェアがインストールされたら、「終了 (Finish)」をクリックします。
4. 「システム設定の変更 (System Setting Change)」ダイアログボックスで「はい (Yes)」をクリックして、システムを再起動します。

Sun サーバーインストールパッケージソフトウェアを Tools and Drivers CD/DVD から実行した場合は、このときに CD をシステムから取り出します。

5. Windows Server 2003 R2 SP2 を実行中で、かつ IPMItool 追加ソフトウェアをインストールしてある場合、IPMItool を実行するにはあらかじめこのドライバの設定を行う必要があります。

手順については、70 ページの「[Windows Server 2003 R2 SP2 用の Microsoft IPMI System Management ドライバの設定](#)」を参照してください。

Windows Server 2003 R2 SP2 用の Microsoft IPMI System Management ド ライバの設定

Windows Server 2003 R2 SP2 を実行中で、かつ IPMItool 追加ソフトウェアをインストールしてある場合、IPMItool を実行するにはあらかじめこのドライバの設定を行う必要があります。

▼ Windows Server 2003 R2 SP2 用の Microsoft IPMI System Management ドライバの設定

Windows Server 2003 R2 SP2 オペレーティングシステムで IPMI ドライバを設定するには、次の手順に従います。

1. Windows Server 2003 R2 SP2 システムで、次の手順を実行して Microsoft IPMI System Management ドライバを設定します。
 - a. コントロールパネルで「アプリケーションの追加と削除」を開きます。
「アプリケーションの追加と削除」ダイアログボックスが表示されます。
 - b. 「Windows コンポーネントの追加と削除」をクリックします。
「Windows コンポーネントウィザード」ダイアログが表示されます。
 - c. 「管理とモニタツール」コンポーネントを強調表示して、「詳細」をクリックします。
「管理とモニタツール」ページが表示されます。
 - d. 「管理とモニタツール」ページで、次のいずれかを実行します。
 - 「ハードウェア管理の選択」サブコンポーネントチェックボックスがすでに選択されている場合は、[手順 2](#)に進みます。
 - 「ハードウェア管理の選択」サブコンポーネントチェックボックスが選択されていない場合は、選択します。
「サードパーティーのドライバ」警告ダイアログが表示されます。
 - e. 警告を読んでから「OK」をクリックします。
「管理とモニタツール」ページが表示されます。
 - f. 「OK」をクリックします。
「Windows コンポーネントウィザード」ダイアログが表示されます。
 - g. 「次へ」をクリックします。
ハードウェア管理コンポーネントがインストールされます。
2. IPMI System Management ドライバをインスタンス化します。
 - a. タスクバーで、「スタート」をクリックしてから、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
「ファイル名を指定して実行」ダイアログボックスが表示されます。
 - b. オープンリストで、以下のように入力します。
`rundll32 ipmisetp.dll,AddTheDevice`
 - c. 「OK」をクリックします。
IPMI System Management ドライバがインスタンス化されます。

3. 「デバイスマネージャ」を開いて、「システムデバイス」セクションの下に「Microsoft 汎用 IPMI 準拠デバイス」が存在することを確認します。

IPMITool の使用方法については、『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』(820-2698) を参照してください。標準の IPMITool コマンドについては、次のサイトを参照してください。

<http://ipmitool.sourceforge.net/manpage.html>

Wake On LAN オプションの有効化

オペレーティングシステムをインストールした後、必要に応じて BIOS 設定ユーティリティーで Wake On LAN (WOL) オプションを有効にできます。この機能を利用すると、ネットワーク上の別の場所からサーバーの電源を入れることができます。WOL を有効にするための要件については、『Sun Fire X4170, X4270, and X4275 Servers Service Manual』の「Wake On LAN – Remote Power On」を参照してください。

TPM オプションの設定

サーバーは Trusted Platform Module (TPM) をサポートしていますが、TPM を使用するにはあらかじめ設定しておく必要があります。TPM の設定方法については、『Sun Fire X4170, X4270, and X4275 Servers Service Manual』の付録「Configuring BIOS Settings」を参照してください。

付録 A

WIM イメージまたは RIS イメージへの Sun Fire サーバードライバの組み込み

この付録は、サーバー固有のドライバを Windows イメージング形式 (Windows Imaging Format、WIM) イメージまたはリモートインストールサービス (Remote Installation Service、RIS) イメージに組み込む必要がある、上級のシステム管理者を対象としています。

WIM ファイルは、Windows 展開サービス (Windows Deployment Service、WDS) を使用してインストールされます。RIS イメージは、従来モードの WDS または RIS のいずれかを使用して展開できます。WDS や RIS の詳細は、Microsoft のドキュメントを参照してください。

この付録には以下のセクションが含まれています。

- [74 ページの「必要なドライバの確認」](#)
- [75 ページの「WIM イメージへのドライバの追加」](#)
- [78 ページの「RIS イメージへのドライバの追加」](#)

必要なドライバの確認

WIM イメージまたは RIS イメージに組み込む必要があるサーバー固有のドライバを表 A-1 に示します。

表 A-1 WIM イメージまたは RIS イメージに必要なサーバー固有のドライバ

ドライバ/デバイス	Windows Server 2003 用に組み込み		Windows Server 2008 用に組み込み	
	32 ビット	64 ビット	32 ビット	64 ビット
Intel Network ドライバ	はい	はい	はい	はい
Intel Chipset ドライバ	はい	はい	いいえ	いいえ
Aspeed Graphic ドライバ	はい	はい	はい	はい
Infineon TPM ドライバ*	はい	はい	いいえ	いいえ
ディスクコントローラドライバ (サーバーにより異なる):	はい	はい	はい	はい
• LSI SAS RAID HBA、SG-PCIE8SAS-I (別名: LSI ベースの統合 RAID コントローラ)				
--または--				
• Sun StorageTek SAS RAID HBA、SG-XPCIESAS-R (別名: Adaptec ベースの統合 RAID コントローラ)				
--または--				
• Intel ICH10 コントローラ (別名: Intel ベースの統合ディスクコントローラ)				

* Trusted Platform Module (TPM) 機能を使用するには、あらかじめ設定をしておく必要があります。TPM の設定方法については、『Sun Fire X4170, X4270, and X4275 Servers Service Manual』を参照してください。

WIM イメージへのドライバの追加

Windows Server 2003 の場合は、インストールするオペレーティングシステム用に、LSI および Adaptec RAID コントローラドライバと、Intel ディスクコントローラドライバを必ず組み込みます。Windows Server 2008 の場合は、システムをインストールするのに LSI および Adaptec RAID コントローラドライバと、Intel ディスクコントローラドライバがあれば十分です。ファームウェア RAID 機能のホスト制御の機能をすべて有効にするために、両方の RAID コントローラドライバを更新することをお勧めします。

この節の手順は、Windows 展開サービスを Windows Server 2003 で実行しているという前提で説明します。

開始前のご注意

WIM イメージの作成前に、次のことを行う必要があります。

- DriverPack_x_x_x.zip を準備します。DriverPack_x_x_x.zip は、Tools and Drivers CD/DVD から入手するか、または Sun ダウンロードサイトからダウンロードできます。ダウンロードの手順については、59 ページの「サーバー固有ドライバのダウンロード」を参照してください。

▼ WIM イメージにドライバを追加するには

1. Windows Server 2008 DriverPack_x_x_x.zip の内容を、ネットワーク共有ディレクトリ (たとえば \\yourshare\share\DriverPack) に解凍します。ディレクトリ構造を変更しないようにしてください。

注 – インストール中にドライバの相互作用の問題が発生する可能性があるため、DriverPack_x_x_x.zip を解凍した後、Intel ICH10 コントローラにインストールしない場合は、i386\Intel\hba ディレクトリと amd64\Intel\hba ディレクトリを削除してください。

2. 更新するサービスイメージを選択し、イメージをエクスポートします。
 - a. 「スタート」をクリックし、「管理ツール (Administrative Tools)」をクリックしてから、「Windows 展開サービス (Windows Deployment Services)」をクリックします。
 - b. サービスのイメージを見つけます。イメージを右クリックし、「無効にする (Disable)」をクリックします。
 - c. イメージを右クリックし、「イメージのエクスポート (Export Image)」を選択します。ウィザードの指示に従って、選択した場所にイメージをエクスポートします。

3. エクスポートした Windows イメージをマウントします。次に例を示します。

```
imagex /mountrw C:\windows_distribution\sources\install.wim 1  
C:\win_mount
```

Install.wim ファイルの最初の Windows イメージが C:\win_mount にマウントされます。

4. Windows システムイメージマネージャ (Windows SIM) を使用して、インストールしようとしているデバイスドライバのパスを含む応答ファイルを作成します。

Windows SIM アプリケーションの起動方法については、Windows 自動インストールキット (AIK) に関する Microsoft のドキュメントを参照してください。

5. 応答ファイルの offlineServicing パスに Microsoft-Windows-PnpCustomizationsNonWinPE コンポーネントを追加します。

6. 応答ファイルの Microsoft-Windows-PnpCustomizationsNonWinPE ノードを展開します。DevicePaths を右クリックし、「新しいPathAndCredentialsの挿入 (Insert New PathAndCredentials)」を選択します。

PathAndCredentials という新しい一覧項目が表示されます。

7. Microsoft-Windows-PnpCustomizationsNonWinPE コンポーネントで、ネットワーク共有にある DriverPack フォルダのアーキテクチャーフォルダのパス、およびこのネットワーク共有へのアクセスに使用する資格情報を指定します。

たとえば、64 ビットイメージの場合のパスと資格情報は次のようになります。

```
<Path>\\yourshare\share\DriverPack\amd64</Path>
```

```
<Credentials>
```

```
  <Domain>MyDomain</Domain>
```

```
  <Username>MyUserName</Username>
```

```
  <Password>MyPassword</Password>
```

```
</Credentials>
```


8. 応答ファイルを保存し、Windows SIM を閉じます。応答ファイルは次の例のようになります。この例では、アーキテクチャーは 64 ビットです。

```
<?xml version="1.0" ?>
<unattend xmlns="urn:schemas-microsoft-com:asm.v3" xmlns:wcm=
"http://schemas.microsoft.com/WMIConfig/2002/State">
  <settings pass="offlineServicing">
    <component name="Microsoft-Windows-PnpCustomizationsNonWinPE"
processorArchitecture="amd64" publicKeyToken="31bf3856ad364e35"
language="neutral" versionScope="nonSxS">
      <DriverPaths>
        <PathAndCredentials wcm:keyValue="1">
          <Path>>\\yourshare\share\DriverPack\amd64</Path>
          <Credentials>
            <Domain>MyDomain</Domain>
            <Username>MyUserName</Username>
            <Password>MyPassword</Password>
          </Credentials>
        </PathAndCredentials>
      </DriverPaths>
    </component>
  </settings>
</unattend>
```

9. パッケージマネージャを使用して、マウントした Windows イメージに無人インストール応答ファイルを適用します。ログファイルを作成する場所を指定します。たとえば、次のように入力します。

```
pkgmgr /o:"C:\wim_mount\;C:\wim_mount\Windows" /n:"C:\
unattend.xml" /l:"C:\pkgmgrlogs\logfile.txt"
```

応答ファイル内のパスで参照される .inf ファイルが Windows イメージに追加されます。ログファイルは、ディレクトリ C:\Pkgmgrlogs\ に作成されます。

パッケージマネージャの使用方法については、Microsoft Windows AIK のドキュメントを参照してください。

10. マウントした Windows イメージの %WINDIR%\Inf\ ディレクトリを確認し、.inf ファイルがインストールされていることを確認してください。
- Windows イメージに追加されたドライバには、oem*.inf という名前が付けられます。これは、コンピュータに追加された新しいドライバには必ず一意の名前が付くようにするためです。たとえば、MyDriver1.inf および MyDriver2.inf というファイルは、oem0.inf および oem1.inf という名前に変更されます。
11. .wim ファイルのマウントを解除して変更をコミットします。たとえば、次のように入力します。

```
imagex /unmount /commit C:\wim_mount
```

12. サービスイメージを置換してイメージを有効にします。

- a. Windows 展開サービススナップインが起動していない場合は、「スタート」をクリックし、「管理ツール (Administrative Tools)」をクリックして、「Windows 展開サービス (Windows Deployment Services)」をクリックします。
- b. サービスのイメージを見つけます。イメージを右クリックし、「イメージの置換 (Replace Image)」をクリックします。ウィザードの指示に従って、このサービスイメージを更新された Windows イメージに置き換えます。
- c. サービスイメージを右クリックし、「有効にする (Enable)」を選択します。
これでサービスイメージが使用可能になり、すべてのサーバー固有ドライバがイメージに追加されます。

RIS イメージへのドライバの追加

Windows リモートインストールサービスを実行しているサーバーを使用した Windows Server 2003 のリモートインストールでは、Windows Server 2003 で提供される大容量記憶装置コントローラドライバは、オペレーティングシステムをインストールするには不十分です。DriverPack_x_x_x.zip に含まれている大容量記憶装置ドライバを使用して RIS イメージを更新することをお勧めします。

開始前のご注意

RIS イメージの作成前に、以下を実行します。

- Windows リモートインストールサービスが Windows サーバーで実行されている必要があります。詳細は、Windows リモートインストールサービスのドキュメントを参照してください。
- Windows Server 2003 用の DriverPack_x_x_x.zip を準備します。

DriverPack_x_x_x.zip は、Tools and Drivers CD/DVD から入手するか、または Sun ダウンロードサイトからダウンロードできます。ダウンロードの手順については、[59 ページの「サーバー固有ドライバのダウンロード」](#)を参照してください。

▼ RIS イメージにドライバを追加するには

次の手順で、%RIS_Image% は、RIS サーバーの Windows イメージのルートディレクトリを指します。

1. %RIS_Image% に次のディレクトリを作成します。
 - \$OEM\$\textmode
 - \$OEM\$\\$OEMDIR
 - \$OEM\$\\$1\Sun\Drivers
2. DriverPack_x_x_x.zip の内容を一時的な保存場所に解凍します。ディレクトリ構造を変更しないようにしてください。
3. 使用している Windows プラットフォーム用のサーバー固有のドライバで %RIS_Image% を更新します。
 - 32 ビットの場合、DriverPack\i386 フォルダの内容を %RIS_Image%\\$OEM\$\\$1\Sun\Drivers フォルダに、ディレクトリ構造を変更しないようにして、コピーします。
 - 64 ビットの場合、DriverPack\amd64 フォルダの内容を %RIS_Image%\\$OEM\$\\$1\Sun\Drivers フォルダに、ディレクトリ構造を変更しないようにして、コピーします。
4. 次のいずれかの方法を使用して、%RIS_Image%\\$OEM\$\textmode フォルダの大容量記憶装置ドライバを更新します。
 - 方法 1:
 - a. Tools and Drivers CD/DVD を使用して、21 ページの「デバイスドライバ用フロッピーディスクの作成」の説明に従い MKFLOPPY ユーティリティを使用して Intel ICH10/LSI/SMI 用の Windows 2003 大容量記憶装置ドライバフロッピーディスクを作成します。
 - b. フロッピーの内容を %RIS_Image%\\$OEM\$\textmode フォルダにコピーします。
 - 方法 2:
 - a. Tools and Drivers CD/DVD 内の適切なフロッピーパックフォルダを %RIS_Image%\\$OEM\$\textmode フォルダにコピーします。
 - LSI の場合: \windows\w2k3\packages\floppypack\files\LSI
 - Sun StorageTek (Adaptec) の場合: \windows\w2k3\packages\floppypack\files\SMI
 - Intel ICH10 の場合: \windows\w2k3\packages\floppypack\files\intel

5. 適切な大容量記憶装置ドライバのディレクトリの内容を `textmode` ディレクトリのルートディレクトリにコピーします。
 - LSI の場合:
 - Windows 2003 32 ビットを LSI コントローラにインストールする場合は、`%RIS_Image%\OEM\textmode\LSI\i386` の内容を `%RIS_Image%\OEM\textmode` にコピーします。
 - Windows 2003 64 ビットを LSI コントローラにインストールする場合は、`%RIS_Image%\OEM\textmode\LSI\amd64` の内容を `%RIS_Image%\OEM\textmode` にコピーします。
 - Sun StorageTek (Adaptec) の場合:
 - Windows 2003 32 ビットを Adaptec コントローラにインストールする場合は、`%RIS_Image%\OEM\textmode\smi\i386` の内容を `%RIS_Image%\OEM\textmode` にコピーします。
 - Windows 2003 64 ビットを adaptec コントローラにインストールする場合は、`%RIS_Image%\OEM\textmode\smi\amd64` の内容を `%RIS_Image%\OEM\textmode` にコピーします。
 - Intel ICH10 の場合:
 - Windows 2003 32 ビットを ICH10 コントローラにインストールする場合は、`%RIS_Image%\OEM\textmode\intel\i386` の内容を `%RIS_Image%\OEM\textmode` にコピーします。
 - Windows 2003 64 ビットを ICH10 コントローラにインストールする場合は、`%RIS_Image%\OEM\textmode\intel\amd64` の内容を `%RIS_Image%\OEM\textmode` にコピーします。
6. Microsoft TechNet の技術文書「セットアップマネージャを使用した応答ファイルの作成 (Creating an Answer File with Setup Manager)」の方法に従って応答ファイルを作成します。

この文書は、以下の場所にあります。

<http://technet2.microsoft.com/WindowsServer/en/library/78421630-6fcc-4604-a888-bd9c84244a5b1033.msp>
7. 使用する大容量記憶装置ソリューション用の `.sif` ファイルに対し、次の各表にならって変更を加えてから、手順 8 に進みます。
 - LSI ベースの統合 RAID コントローラを搭載したサーバーについては、表 A-2 を参照してください。
 - Adaptec ベースの統合 RAID コントローラを搭載したサーバーについては、表 A-3 を参照してください。
 - Intel ベースの統合ディスクコントローラを搭載したサーバーについては、表 A-4 を参照してください。

注 - 読みやすくするために、OemPnpDriversPath 情報は複数行に分けて表示していますが、実際は 1 行に入力してください。MassStorageDrivers の 3 つのドライバは複数行に分けて表示しています。それぞれのドライバ ("ドライバの説明" = OEM) は、個別の行として入力するようにしてください。インストール中にドライバの相互作用の問題が発生する可能性があるため、Intel ICH10 にインストールする場合にのみ、OemPnpDriversPath エントリに Sun\Drivers\intel\hba パスを含めます。Sun StorageTek (Adaptec) または LSI RAID コントローラにインストールする場合は、セットアップが完了した後に手動で Intel ICH10 ドライバをインストールします。このドライバは、インストールディスクのルートの Sun\Drivers\intel\hba ディレクトリに格納されます。

表 A-2 LSI ベースの統合 RAID コントローラを搭載したサーバーの .sif ファイルの変更内容

Windows Server 2003 32 ビット	Windows Server 2003 64 ビット
[Unattended]	[Unattended]
OemPreinstall = yes	OemPreinstall = yes
OemPnpDriversPath = "\Sun\Drivers\ast;\Sun\Drivers\emulex;\Sun\Drivers\qlogic;\Sun\Drivers\infineon;\Sun\Drivers\intel\chipset;\Sun\Drivers\intel\nic;\Sun\Drivers\lsi;\Sun\Drivers\smi"	OemPnpDriversPath = "\Sun\Drivers\ast;\Sun\Drivers\emulex;\Sun\Drivers\qlogic;\Sun\Drivers\infineon;\Sun\Drivers\intel\chipset;\Sun\Drivers\intel\nic;\Sun\Drivers\lsi;\Sun\Drivers\smi"
[MassStorageDrivers]	[MassStorageDrivers]
"LSI Logic Fusion-MPT SAS Storport Driver (32-bit)" = OEM	"LSI Logic Fusion-MPT SAS Storport Driver (64-bit)" = OEM
[OEMBootFiles]	[OEMBootFiles]
txtsetup.oem	txtsetup.oem
disk4.tag	disk4.tag
lsi_sas.inf	lsi_sas.inf
lsi_sas.sys	lsi_sas.sys
lsinodrv.inf	lsinodrv.inf
s2k332.cat	s2k3amd64.cat

表 A-3 Adaptec ベースの統合 RAID コントローラを搭載したサーバーの .sif ファイルの変更内容

Windows Server 2003 32 ビット	Windows Server 2003 64 ビット
<pre>[Unattended] OemPreinstall = yes OemPnPDriversPath = "\Sun\Drivers\ast;\Sun\Drivers\emulex;\Sun\Drivers\qlogic;\Sun\Drivers\infineon;\Sun\Drivers\intel\chipset;\Sun\Drivers\intel\nic;\Sun\Drivers\lsi;\Sun\Drivers\smi"</pre>	<pre>[Unattended] OemPreinstall = yes OemPnPDriversPath = "\Sun\Drivers\ast;\Sun\Drivers\emulex;\Sun\Drivers\qlogic;\Sun\Drivers\infineon;\Sun\Drivers\intel\chipset;\Sun\Drivers\intel\nic;\Sun\Drivers\lsi;Sun\Drivers\smi"</pre>
<pre>[MassStorageDrivers] "Adaptec SAS/SATA-II RAID Controller Driver (32-bit)" = OEM</pre>	<pre>[MassStorageDrivers] "Adaptec SAS/SATA-II RAID Controller Driver (64-bit)" = OEM</pre>
<pre>[OEMBootFiles] txtsetup.oem disk4.tag adpenc.cat adpenc.sys arcsas.cat arcsas.sys arcsas.inf raidisk1</pre>	<pre>[OEMBootFiles] txtsetup.oem disk4.tag adpenc.cat adpenc.sys arcsas.cat arcsas.sys arcsas.inf raidisk1</pre>

表 A-4 Intel ベースの統合ディスクコントローラを搭載したサーバーの .sif ファイルの変更内容

Windows Server 2003 32 ビット	Windows Server 2003 64 ビット
<pre>[Unattended] OemPreinstall = yes OemPnPDriversPath = "\Sun\Drivers\ast;\Sun\Drivers\emulex;\Sun\Drivers\qlogic;\Sun\Drivers\infineon;\Sun\Drivers\intel\chipset;\Sun\Drivers\intel\nic;Sun\Drivers\intel\hba;\Sun\Drivers\lsi;\Sun\Drivers\smi"</pre>	<pre>[Unattended] OemPreinstall = yes OemPnPDriversPath = "\Sun\Drivers\ast;\Sun\Drivers\emulex;\Sun\Drivers\qlogic;\Sun\Drivers\infineon;\Sun\Drivers\intel\chipset;\Sun\Drivers\intel\nic;Sun\Drivers\intel\hba;\Sun\Drivers\lsi;\Sun\Drivers\smi"</pre>
<pre>[MassStorageDrivers] "Intel Matrix Storage Manager driver (32-bit)" = OEM</pre>	<pre>[MassStorageDrivers] "Intel Matrix Storage Manager driver (64-bit)" = OEM</pre>
<pre>[OEMBootFiles] txtsetup.oem disk4.tag iaAHCI.inf iaAHCI.sys iaStor.inf iaStor.sys iaStor.cat</pre>	<pre>[OEMBootFiles] txtsetup.oem disk4.tag iaAHCI.inf iaAHCI.sys iaStor.inf iaStor.sys iaStor.cat</pre>

8. Intel Ethernet ドライバを RIS イメージに追加します。

- オンボードの Intel 82575EB Gigabit Ethernet デバイス、32 ビットの場合:
 - i. %RIS_Image%\\$OEM\$\\$1\Sun\Drivers\intel\nic\RIS_INF\elq5132.zip 内の inf ファイルを %RIS_Image%\i386 に解凍します。
 - ii. %RIS_Image%\\$OEM\$\\$1\Sun\Drivers\intel\nic 内の elq5132.sys ファイルを %RIS_Image%\i386 にコピーします。
- オンボードの Intel 82575EB Gigabit Ethernet デバイス、64 ビットの場合:
 - i. %RIS_Image%\\$OEM\$\\$1\Sun\Drivers\intel\nic\RIS_INF\elq51x64.zip 内の inf ファイルを %RIS_Image%\amd64 に解凍します。
 - ii. %RIS_Image%\\$OEM\$\\$1\Sun\Drivers\intel\nic 内の elq51x64.sys ファイルを %RIS_Image%\amd64 にコピーします。

9. RIS サーバーでリモートインストールサービスの BINLSVC サービスを停止してから、開始します。

これを行うには、コマンドプロンプトで次のコマンドを入力し、各コマンドの後に Enter キーを押します。

```
> net stop binlsvc
> net start binlsvc
```


索引

B

BIOS

- 「起動設定 (Boot Settings)」ダイアログ, 14
- 起動デバイスの優先度
変更, 15
- 「起動デバイスの優先度 (Boot Device Priority)」ダイアログ, 15
- システム時刻またはシステム日付, 13
- 出荷時のデフォルト
読み込み, 13

BIOS セットアップユーティリティー, 13

BIOS 設定

- 新規インストール, 10

F

FloppyPack_x_x_x.zip, 21

I

ILOM Web インタフェース, 11, 27, 37, 48, 56

O

OS のインストール先

- ファイバチャネルストレージエリアネットワーク, 10

P

PathAndCredentials, 76

PXE, 37

PXE ネットワーク環境経由での Windows Server
2003 のインストール, 36

PXE ネットワーク環境, 37

R

RHEL

KickStart イメージ, 9

RIS

- DriverPack, 78
- イメージ
ドライバの追加, 78

S

SAN

ファイバチャネルストレージエリアネットワークを参照

sif ファイル

必要な変更, 80

Solaris 10

あらかじめインストールされている OS, 3
イメージ, 3

Sun のサポート, ix

U

UNIX コマンド, ix

W

WDS, 54, 73

WDS イメージ, 54

Web サイト

Sun 以外, x

WIM

パッケージマネージャ, 77

Windows

RIS または WDS イメージ, 9

Windows Server 2003 オペレーティングシステム、インストール
インストール先、ローカルストレージデバイスと外部ストレージデバイス, 9
メディア、ローカルおよびリモートでのインストール方法の概要, 7

Windows Server 2008 のインストール
ローカルまたは仮想メディアの使用, 47

Windows オペレーティングシステム、インストール
ローカルまたは仮想メディアの使用, 26

Windows 展開サービス
「WDS」を参照

い
インストールの作業マップ
Windows 2008, 46

お
オペレーティングシステム
サポート対象, 2
デュアルブート設定, 3

か
関連マニュアル, viii

き
起動デバイスのダイアログ, 50
「起動デバイスを選択してください (Please Select Boot Device)」メニュー, 58
起動デバイス、一時, 10

こ
コンソール
シリアル, 6
リモート, 6
ローカル, 5
コンソール]
サポート対象, 5

さ
サーバーの電源切断と電源投入
サポートされているインタフェース, 11, 27, 37, 48, 56

し
システム, 13

せ
製品アップデート
ダウンロード, vii
設置
「インストールの種類」ダイアログ, 52

た
大容量記憶装置ドライバ
フロッピーディスクの作成, 22
イメージファイルのコピー, 24

て
ディスク
RAID の構成, 45
ディスク構成
RAID, 17
デバイスドライバ
ISO イメージ, 27
RIS, 74
Tools and Drivers CD/DVD, 20
WIM, 74
起動時, 20
起動時にインストールする, 20
大容量記憶装置
準備, 20
ダウンロード, 21
ディスクの作成, 22
フロッピーイメージ, 24

と
取り付け, 54
PXE, 36
PXE の使用, 9
インストール先, 9
起動デバイスのダイアログ, 49
起動メディア, 7, 8
作業マップ, 18
自動イメージ, 8
準備すべき事柄, 3
手順, 19
方法, 5

ユーザーパスワードの変更, 54
ローカルおよびリモート, 47
ローカルまたはリモート, 26

ふ

ファイバチャネル PCI ホストバスアダプタ, 10

ま

マニュアル
対象読者, vii
ソフトウェア, ix
Solaris オペレーティングシステム, ix
関連マニュアル, viii
サポート, ix
入手可能な言語, ix
マニュアル、サポート, ix

め

メディア
フロッピーディスク, 21

も

リモートインストールサービス (RIS)
必要なドライバ, 74

り

リモートインストールサービス
「RIS」を参照
リモートインストールサービス (RIS)
ドライバの追加, 78

